LualAT_EX-ja用 jclasses 互換クラス

LuaT_EX-ja プロジェクト 2017/03/06

${\bf Contents}$

1	はじめに	3
	1.1 jclasses.dtx からの主な変更点	4
2	LuaT _E X-ja の読み込み	4
3	オプションスイッチ	4
4	オプションの宣言	6
	4.1 用紙オプション	6 7
	4.3 横置きオプション	7
	4.4 トンボオプション	7
	4.5 面付けオプション	8
	4.6 組方向オプション	8
	4.7 両面、片面オプション	8
	4.8 二段組オプション	8
	4.9 表題ページオプション	9
	4.10 右左起こしオプション	9
	4.11 数式のオプション	9
	4.12 参考文献のオプション	9
	4.13 日本語ファミリ宣言の抑制、和欧文両対応の数式文字	10
	4.14 ドラフトオプション	10
	4.15 フォントメトリックの変更	10
	4.16 オプションの実行	11
5	フォント	11

6	レイ	アウト	15
	6.1	用紙サイズの決定	15
	6.2	段落の形	16
	6.3	ページレイアウト	17
		6.3.1 縦方向のスペース	17
		6.3.2 本文領域	18
		6.3.3 マージン	23
	6.4	脚注	27
	6.5	フロート	27
		6.5.1 フロートパラメータ	27
		6.5.2 フロートオブジェクトの上限値	29
_	⊐h ^∘	** (ロナ語 m y 明 A コ > 二 , に の 1)	90
7	CX/	ージ(日本語 $\mathbf{T_{E}X}$ 開発コミュニティ版のみ)	30
8	ペー	ジスタイル	31
	8.1	マークについて	32
	8.2	plain ページスタイル	32
	8.3	jpl@in ページスタイル	32
	8.4	headnombre ページスタイル	33
	8.5	footnombre ページスタイル	33
	8.6	headings スタイル	33
	8.7	bothstyle スタイル	35
	8.8	myheading スタイル	36
9	文書	コマンド	36
•	9.1	表題	36
	9.2	概要	41
	9.3	章見出し	42
	0.0	9.3.1 マークコマンド	42
		9.3.2 カウンタの定義	42
		9.3.3 前付け、本文、後付け	44
		9.3.4 ボックスの組み立て	45
		9.3.5 part レベル	46
		9.3.6 chapter レベル	48
		9.3.7 下位レベルの見出し	50
		9.3.8 付録	51
	9.4	リスト環境	52
		9.4.1 enumerate 環境	54

		9.4.2	itemize 環境	55
		9.4.3	description 環境	56
		9.4.4	verse 環境	56
		9.4.5	quotation 環境	57
		9.4.6	quote 環境	57
	9.5	フロー	F	57
		9.5.1	figure 環境	58
		9.5.2	table 環境	58
	9.6	キャプ	ション	59
	9.7	コマン	ドパラメータの設定	60
		9.7.1	array と tabular 環境	60
		9.7.2	tabbing 環境	60
		9.7.3	minipage 環境	60
		9.7.4	framebox 環境	60
		9.7.5	equation と eqnarray 環境	61
10	フォ	ントコマ	アンド	61
	フォ 相互:			61 62
	相互	参照 目次 .		
	相互	参照 目次 .		62
	相互	参照 目次 . 11.1.1		62
	相互: 11.1 11.2	参照 目次 . 11.1.1 11.1.2 参考文	本文目次 本文目次 図目次と表目次 献	62 62 64
	相互: 11.1 11.2	参照 目次 . 11.1.1 11.1.2 参考文	本文目次 国目次と表目次 獣	62 62 64 67
	相互: 11.1 11.2 11.3	参照 目次 . 11.1.1 11.1.2 参考文 索引 .	本文目次	62 62 64 67
11	相互: 11.1 11.2 11.3 11.4	参照 目次 . 11.1.1 11.1.2 参考文 索引 .	本文目次 本文目次 図目次と表目次 献	62 62 64 67 67 68
11	相互: 11.1 11.2 11.3 11.4	参照 目次 . 11.1.1 11.1.2 参索引 . の日付	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	62 62 64 67 67 68 69
11 12 13	相互: 11.1 11.2 11.3 11.4 今日: 初期:	参照 11.1.1 11.1.2 参索脚 日 定 の 設	本文目次図目次と表目次	62 62 64 67 68 69

1 はじめに

このファイルは、Lual ΔT_{E} X-ja 用の j classes 互換クラスファイルです。v1.6 をベースに作成しています。 DOCSTRIP プログラムによって、横組用のクラスファイルと 縦組用のクラスファイルを作成することができます。

次に DOCSTRIP プログラムのためのオプションを示します。

オプション	意味
article	article クラスを生成
report	report クラスを生成
book	book クラスを生成
$10 \mathrm{pt}$	10pt サイズの設定を生成
11pt	11pt サイズの設定を生成
12pt	12pt サイズの設定を生成
bk	book クラス用のサイズの設定を生成
tate	縦組用の設定を生成
yoko	横組用の設定を生成

1.1 jclasses.dtx からの主な変更点

全ての変更点を知りたい場合は、jclasses.dtx と ltjclasses.dtx で diff をとって下さい。

- disablejfam オプションを無効化。もし
 - ! LaTeX Error: Too many math alphabets used in version ****.
 のエラーが起こった場合は、lualatex-math パッケージを読み込んでみて下さい。
- 出力 PDF の用紙サイズが自動的に設定されるようにしてあります。
- 縦組みクラスにおいて、geometry パッケージを読み込んだときに意図通りに ならない問題に対応しました。

2 LuaT_EX-ja の読み込み

最初に luatexja を読み込みます。

- 1 %<*article|report|book>
- 2 \RequirePackage{luatexja}

3 オプションスイッチ

ここでは、後ほど使用するいくつかのコマンドやスイッチを定義しています。

\c@Opaper 用紙サイズを示すために使います。A4, A5, B4, B5 用紙はそれぞれ、1, 2, 3, 4 として表されます。

3 \newcounter{@paper}

\if@landscape 用紙を横向きにするかどうかのスイッチです。デフォルトは、縦向きです。

4 \newif\if@landscape \@landscapefalse

\@ptsize 組版をするポイント数の一の位を保存するために使います。0, 1, 2 のいずれかです。

 $\label{local_ptsize} \begin{tabular}{ll} 5 \verb|\newcommand{\color=local_ptsize}{\color=local_$

\if@restonecol 二段組時に用いるテンポラリスイッチです。

6 \newif\if@restonecol

\if@titlepage タイトルページやアブストラクト (概要)を独立したページにするかどうかのスイッチです。report と book スタイルのデフォルトでは、独立したページになります。

7 \newif\if@titlepage

8 %<article>\@titlepagefalse

9 %<report|book>\@titlepagetrue

\ifCopenright chapter レベルを右ページからはじめるかどうかのスイッチです。横組では奇数ペー

ジ、縦組では偶数ページから始まることになります。report クラスのデフォルトは、

"no" です。book クラスのデフォルトは、"yes" です。

10 %<!article>\newif\if@openright

\ifCopenleft chapter レベルを左ページからはじめるかどうかのスイッチです。日本語 T_{EX} 開発

コミュニティ版で新たに追加されました。横組では偶数ページ、縦組では奇数ページから始まることになります。report クラスと book クラスの両方で、デフォルト

は "no" です。

11 %<!article>\newif\if@openleft

\if@mainmatter スイッチ \@mainmatter が真の場合、本文を処理しています。このスイッチが偽の

場合は、\chapter コマンドは見出し番号を出力しません。

12 % <book > \newif \if @mainmatter \@mainmattertrue

\hour

\minute 13 \hour\time \divide\hour by 60\relax

14 <page-header> tempcnta hour <caption> multiply \emptyset tempcnta 60 relax

15 \minute\time \advance\minute-\@tempcnta

\if ${f estysize}$ LAT_FX $2_{arepsilon}$ 2.09 互換モードで、スタイルオプションに ${f a4j}$, ${f a5p}$ などが指定されたとき

の動作をエミュレートするためのフラグです。

16 \newif\if@stysize \@stysizefalse

\if@mathrmmc

和欧文両対応の数式文字コマンドを有効にするときに用いるフラグです。マクロの 展開順序が複雑になるのを避けるため、デフォルトでは false としてあります。

17 \newif\if@mathrmmc \@mathrmmcfalse

4 オプションの宣言

ここでは、クラスオプションの宣言を行なっています。

4.1 用紙オプション

用紙サイズを指定するオプションです。

```
18 \DeclareOption{a4paper}{\setcounter{@paper}{1}%
         \setlength\paperheight {297mm}%
       \setlength\paperwidth {210mm}}
21 \DeclareOption{a5paper}{\setcounter{@paper}{2}%
22 \setlength\paperheight {210mm}
          \setlength\paperwidth {148mm}}
24 \DeclareOption{b4paper}{\setcounter{@paper}{3}%
25 \setlength\paperheight {364mm}
26 \setlength\paperwidth {257mm}}
27 \DeclareOption{b5paper}{\setcounter{@paper}{4}%
         \setlength\paperheight {257mm}
        \setlength\paperwidth {182mm}}
 ドキュメントクラスに、以下のオプションを指定すると、通常よりもテキストを組
み立てる領域の広いスタイルとすることができます。
30 %
31 \DeclareOption{a4j}{\setcounter{@paper}{1}\@stysizetrue
       \setlength\paperheight {297mm}%
     \setlength\paperwidth {210mm}}
34 \DeclareOption{a5j}{\setcounter{@paper}{2}\@stysizetrue
35 \setlength\paperheight {210mm}
36 \setlength\paperwidth {148mm}}
37 \DeclareOption{b4j}{\setcounter{@paper}{3}\@stysizetrue
38 \setlength\paperheight {364mm}
         \setlength\paperwidth {257mm}}
40 \DeclareOption{b5j}{\setcounter{@paper}{4}\@stysizetrue
         \setlength\paperheight {257mm}
         \setlength\paperwidth {182mm}}
42
43 %
44 \DeclareOption{a4p}{\setcounter{@paper}{1}\@stysizetrue
          \setlength\paperheight {297mm}%
          \setlength\paperwidth {210mm}}
47 \DeclareOption{a5p}{\setcounter{@paper}{2}\@stysizetrue
          \setlength\paperheight {210mm}
       \setlength\paperwidth {148mm}}
50 \end{b4p} {\tt Setcounter(Qpaper){3}\end{b4p}} {\tt Setcounter(Qpaper){4}\end{b4p}} {
```

```
51 \setlength\paperheight {364mm}
```

- 52 \setlength\paperwidth {257mm}}
- $53 \ensuremath{\texttt{DeclareOption\{b5p\}{\texttt{Setcounter\{@paper\}\{4\}}\ensuremath{\texttt{Qstysizetrue}}}}$
- 54 \setlength\paperheight {257mm}
- 55 \setlength\paperwidth {182mm}}

4.2 サイズオプション

基準となるフォントの大きさを指定するオプションです。

```
56 \if@compatibility
```

- 7 \renewcommand{\@ptsize}{0}
- $58 \setminus else$
- 59 \DeclareOption{10pt}{\renewcommand{\@ptsize}{0}}
- 60 \fi
- 61 \DeclareOption{11pt}{\renewcommand{\@ptsize}{1}}
- 62 \DeclareOption{12pt}{\renewcommand{\@ptsize}{2}}

4.3 横置きオプション

このオプションが指定されると、用紙の縦と横の長さを入れ換えます。

- 63 \DeclareOption{landscape}{\@landscapetrue
- 64 \setlength\@tempdima{\paperheight}%
- 65 \setlength\paperheight{\paperwidth}%
- 66 \setlength\paperwidth{\@tempdima}}

4.4 トンボオプション

tombow オプションが指定されると、用紙サイズに合わせてトンボを出力します。このとき、トンボの脇に PDF を作成した日付が出力されます。作成日付の出力を抑制するには、tombow ではなく、tombo と指定をします。

ジョブ情報の書式は元々 filename : 2017/3/5(13:3) のような書式でしたが、jsclasses にあわせて桁数固定の filename (2017-03-05 13:03) に直しました。

67 \DeclareOption{tombow}{%

- 68 \tombowtrue \tombowdatetrue
- 69 \setlength{\@tombowwidth}{.1\p@}%
- 70 \@bannertoken{%
- 71 \jobname\space(\number\year-\two@digits\month-\two@digits\day
- 72 \space\two@digits\hour:\two@digits\minute)}%
- 73 \maketombowbox}
- 74 \DeclareOption{tombo}{%
- 75 \tombowtrue \tombowdatefalse
- 76 \setlength{\@tombowwidth}{.1\p@}%
- 77 \maketombowbox}

4.5 面付けオプション

このオプションが指定されると、トンボオプションを指定したときと同じ位置に文章を出力します。作成した PDF をフィルムに面付け出力する場合などに指定をします

```
78 \DeclareOption{mentuke}{%
79 \tombowtrue \tombowdatefalse
80 \setlength{\Qtombowwidth}{\zQ}%
81 \maketombowbox}
```

4.6 組方向オプション

このオプションが指定されると、縦組で組版をします。

```
82 \DeclareOption{tate}{%
83 \tate\AtBeginDocument{\message{《縦組モード》}\adjustbaseline}%
84 }
```

縦組クラスと everyshi パッケージの相性が悪い問題に対処します。この処理は、 ZR さんの pxeveryshi パッケージと実質的に同じ内容です。

```
85 %<*tate>
86 \AtEndOfPackageFile{everyshi}{%
    \def\@EveryShipout@Output{%
      \setbox8\vbox{%
88
        \yoko
89
        \@EveryShipout@Hook
90
        \@EveryShipout@AtNextHook
91
        \global\setbox\luatexoutputbox=\box\luatexoutputbox
93
      \gdef\@EveryShipout@AtNextHook{}%
94
      \@EveryShipout@Org@Shipout\box\luatexoutputbox
95
   }}
96
97 %</tate>
```

4.7 両面、片面オプション

twoside オプションが指定されると、両面印字出力に適した整形を行ないます。 98 \DeclareOption{oneside}{\@twosidefalse} 99 \DeclareOption{twoside}{\@twosidetrue}

4.8 二段組オプション

二段組にするかどうかのオプションです。

100 \DeclareOption{onecolumn}{\@twocolumnfalse}

101 \DeclareOption{twocolumn}{\@twocolumntrue}

4.9 表題ページオプション

Otitlepage が真の場合、表題を独立したページに出力します。

- 102 \DeclareOption{titlepage}{\@titlepagetrue}
- 103 \DeclareOption{notitlepage}{\@titlepagefalse}

4.10 右左起こしオプション

chapter を右ページあるいは左ページからはじめるかどうかを指定するオプションです。openleft オプションは日本語 T_FX 開発コミュニティによって追加されました。

- 104 %<!article>\if@compatibility
- 105 %<book>\@openrighttrue
- 106 %<!article>\else
- $107 \ \% < ! article > \ DeclareOption \{ open right \} \{ \ @ open right true \ \ \ \ \ \ \} \}$
- 108 %<!article>\DeclareOption{openleft}{\@openlefttrue\@openrightfalse}
- ${\tt 109\ \%<!article>\DeclareOption\{openany\}\{\Qopenrightfalse\Qopenleftfalse\}}$
- 110 %<!article>\fi

4.11 数式のオプション

leqno を指定すると、数式番号を数式の左側に出力します。fleqn を指定するとディスプレイ数式を左揃えで出力します。

- 111 \DeclareOption{leqno}{\input{leqno.clo}}
- 112 \DeclareOption{fleqn}{\input{fleqn.clo}}

4.12 参考文献のオプション

参考文献一覧を"オープンスタイル"の書式で出力します。これは各ブロックが改行で区切られ、\bibindentのインデントが付く書式です。

113 \DeclareOption{openbib}{%

参考文献環境内の最初のいくつかのフックを満たします。

- 114 \AtEndOfPackage{%
- 115 \renewcommand\@openbib@code{%
- 116 \advance\leftmargin\bibindent
- 117 \itemindent -\bibindent
- 118 \listparindent \itemindent
- 119 \parsep \z@
- 120 }%

そして、\newblockを再定義します。

121 \renewcommand\newblock{\par}}}

4.13 日本語ファミリ宣言の抑制、和欧文両対応の数式文字

 pT_{EX} では数式ファミリの数が 16 個だったので日本語ファミリ宣言を抑制する disablejfam オプションが用意されていましたが、Lua T_{EX} では Omega 拡張が取り込まれて数式ファミリは 256 個まで使用できるため、このオプションは必要ありません。ただし、 IAT_{EX} 2 ε カーネルでは未だに数式ファミリの数は 16 個に制限されているので、実際に使用可能な数式ファミリの数を増やすためには lualatex-mathパッケージを読み込む必要があることに注意が必要です。

mathrmmc オプションは、\mathrm と \mathbf を和欧文両対応にするためのクラスオプションです。

```
122 \if@compatibility
```

123 \@mathrmmctrue

124 \else

125 \DeclareOption{disablejfam}{%

126 \ClassWarningNoLine{\@currname}{The class option 'disablejfam' is obsolete}}

127 \DeclareOption{mathrmmc}{\@mathrmmctrue}

128 \fi

4.14 ドラフトオプション

draft オプションを指定すると、オーバフルボックスの起きた箇所に、5pt の罫線が引かれます。

```
129 \verb|\DeclareOption{draft}{\setlength}| overfull rule{5pt}|
```

- 130 \DeclareOption{final}{\setlength\overfullrule{Opt}}
- 131 %</article|report|book>

4.15 フォントメトリックの変更

Lual Δ TeX-ja の標準では、OTF パッケージ由来のメトリックが使われるようになっています。本クラスでは、「pTeX の組版と互換性をできるだけ持たせる」例を提示するため、

- メトリックを min10.tfm ベースの jfm-min.lua に変更。
- 明朝とゴシックは両方とも jfm-min.lua を用いるが、和文処理用グルー挿入時には「違うメトリックを使用」として思わせる。
- pTEX と同様に、「異なるメトリックの 2 つの和文文字」の間には、両者から 定めるグルーを両方挿入する。
- calllback を利用し、標準で用いる jfm-min.lua を、段落始めの括弧が全角二分下がりになるように内部で変更している。

\ltj@stdmcfont, \ltj@stdgtfont による、デフォルトで使われ明朝・ゴシックのフォントの設定に対応しました。この2つの命令の値はユーザが日々の利用でその都度指定するものではなく、何らかの理由で非埋め込みフォントが正しく利用できない場合にのみ luatexja.cfg によってセットされるものです。

```
132 %<*article|report|book>
133 \directlua{luatexbase.add_to_callback('luatexja.load_jfm',
134  function (ji, jn) ji.chars['parbdd'] = 0; return ji end,
135  'ltj.jclasses_load_jfm', 1)}
136 {\jfont\g=\ltj@stdmcfont:jfm=min } % loading jfm-min.lua
137 \expandafter\let\csname JY3/mc/m/n/10\endcsname\relax
138 \DeclareFontShape{JY3}{mc}{m}{n}{<-> s * [0.962216] \ltj@stdmcfont:jfm=min}{}
139 \DeclareFontShape{JY3}{gt}{m}{n}{<-> s * [0.962216] \ltj@stdgtfont:jfm=min;jfmvar=goth}{}
140 \ltjglobalsetparameter{differentjfm=both}
141 \directlua{luatexbase.remove_from_callback('luatexja.load_jfm', 'ltj.jclasses_load_jfm')}
142 %</article|report|book>
```

4.16 オプションの実行

```
オプションの実行、およびサイズクラスのロードを行ないます。
143 %<*article|report|book>
144 %<*article>
145 %<tate>\ExecuteOptions{a4paper,10pt,oneside,onecolumn,final,tate}
146 %<yoko>\ExecuteOptions{a4paper,10pt,oneside,onecolumn,final}
147 %</article>
148 %<*report>
149 %<tate>\ExecuteOptions{a4paper,10pt,oneside,onecolumn,final,openany,tate}
150 %<yoko>\ExecuteOptions{a4paper,10pt,oneside,onecolumn,final,openany}
151 %</report>
152 %<*book>
153 %<tate>\ExecuteOptions{a4paper,10pt,twoside,onecolumn,final,openright,tate}
154 %<poko>\ExecuteOptions{a4paper,10pt,twoside,onecolumn,final,openright}
155 %</book>
156 \ProcessOptions\relax
157 %<book&tate>\input{ltjtbk1\@ptsize.clo}
158 %<!book&tate>\input{ltjtsize1\@ptsize.clo}
159 %<book&yoko>\input{ltjbk1\@ptsize.clo}
160 %<!book&yoko>\input{ltjsize1\@ptsize.clo}
縦組用クラスファイルの場合は、ここで plext.sty も読み込みます。
161 %<tate>\RequirePackage{lltjext}
162 %</article|report|book>
```

5 フォント

ここでは、IAT_EX のフォントサイズコマンドの定義をしています。フォントサイズコマンドの定義は、次のコマンドを用います。

 $\ensuremath{\verb|Qsetfontsize|} \langle baselineskip \rangle$

〈font-size〉これから使用する、フォントの実際の大きさです。

⟨*baselineskip*⟩ 選択されるフォントサイズ用の通常の \baselineskip の値です (実際は、\baselinestretch * ⟨*baselineskip*⟩ の値です)。

数値コマンドは、次のように IATFX カーネルで定義されています。

•••

\normalsize 基本サイズとするユーザレベルのコマンドは\normalsize です。IATEX の内部では \Onormalsize を使用します。

\normalsize マクロは、\abovedisplayskip と \abovedisplayshortskip、および \belowdisplayshortskip の値も設定をします。\belowdisplayskip は、つねに \abovedisplayskip と同値です。

また、リスト環境のトップレベルのパラメータは、つねに \@listI で与えられます。

```
163 %<*10pt | 11pt | 12pt>
164 \renewcommand{\normalsize}{\%
165 %<10pt&yoko>
                  \@setfontsize\normalsize\@xpt{15}%
166 %<11pt&yoko>
                  \@setfontsize\normalsize\@xipt{15.5}%
167 %<12pt&yoko> \@setfontsize\normalsize\@xiipt{16.5}%
168 %<10pt&tate>
                 \@setfontsize\normalsize\@xpt{17}%
                  \@setfontsize\normalsize\@xipt{17}%
169 %<11pt&tate>
170 %<12pt&tate>
                  \@setfontsize\normalsize\@xiipt{18}%
171 %<*10pt>
    \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
    \belowdisplayshortskip 6\p@ \@plus3\p@ \@minus3\p@
175 %</10pt>
176 %<*11pt>
177 \abovedisplayskip 11\p@ \@plus3\p@ \@minus6\p@
    \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
    \belowdisplayshortskip 6.5\p@ \@plus3.5\p@ \@minus3\p@
179
180 %</11pt>
181 %<*12pt>
    \abovedisplayskip 12\p@ \@plus3\p@ \@minus7\p@
    \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
184 \belowdisplayshortskip 6.5\p@ \@plus3.5\p@ \@minus3\p@
185 %</12pt>
```

\belowdisplayskip \abovedisplayskip

\let\@listi\@listI}

186 187

```
ここで、ノーマルフォントを選択し、初期化をします。このとき、縦組モードな
        らば、デフォルトのエンコードを変更します。
      188 %<tate>\def\kanjiencodingdefault{JT3}%
      189 %<tate>\kanjiencoding{\kanjiencodingdefault}%
      190 \normalsize
 \Cht 基準となる長さの設定をします。これらのパラメータは 11t jfont.sty で定義され
 \Cdp ています。
 \Cwd 191 \setbox0\hbox{\char"3000}% 全角スペース
 \Cvs 192 \setlength\Cht{\ht0}
      193 \setlength\Cdp{\dp0}
 \verb|\Chs||_{194} \end{th} Cwd{\wd0} \\
      195 \setlength\Cvs{\baselineskip}
      196 \setlength\Chs{\wd0}
\small \small コマンドの定義は、\normalsize に似ています。
      197 \newcommand{\small}{%
      198 %<*10pt>
           \@setfontsize\small\@ixpt{11}%
      199
      200
           \abovedisplayskip 8.5\p@ \@plus3\p@ \@minus4\p@
           \abovedisplayshortskip \z@ \@plus2\p@
      202
           \belowdisplayshortskip 4\p@ \@plus2\p@ \@minus2\p@
      203
           \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
      204
                       \topsep 4\p@ \@plus2\p@ \@minus2\p@
      205
                       \parsep 2\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
      206
                       \itemsep \parsep}%
      207 %</10pt>
      208 %<*11pt>
           \@setfontsize\small\@xpt\@xiipt
      209
           \abovedisplayskip 10\p@ \@plus2\p@ \@minus5\p@
      210
      211
           \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
      212
           \belowdisplayshortskip 6\p@ \@plus3\p@ \@minus3\p@
      213
           \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
                       \topsep 6\p@ \@plus2\p@ \@minus2\p@
      214
                       \parsep 3\p@ \@plus2\p@ \@minus\p@
      215
      216
                       \itemsep \parsep}%
      217 %</11pt>
      218 %<*12pt>
           \@setfontsize\small\@xipt{13.6}%
      219
           \abovedisplayskip 11\p@ \@plus3\p@ \@minus6\p@
      220
      221
           \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
           \belowdisplayshortskip 6.5\p@ \@plus3.5\p@ \@minus3\p@
      222
           \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
      223
                       \topsep 9\p@ \@plus3\p@ \@minus5\p@
      224
                       \parsep 4.5\p@ \@plus2\p@ \@minus\p@
      225
      226
                       \itemsep \parsep}%
      227 %</12pt>
           \belowdisplayskip \abovedisplayskip}
```

```
\footnotesize \footnotesize コマンドの定義は、\normalsize に似ています。
              229 \newcommand{\footnotesize}{%
              230 %<*10pt>
              231
                   \@setfontsize\footnotesize\@viiipt{9.5}%
              232
                    \abovedisplayskip 6\p@ \@plus2\p@ \@minus4\p@
              233
                    \abovedisplayshortskip \z@ \@plus\p@
              234
                    \belowdisplayshortskip 3\p@ \@plus\p@ \@minus2\p@
                    \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
              235
                                \topsep 3\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
              236
                                \parsep 2\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
              237
              238
                                \itemsep \parsep}%
              239 %</10pt>
              240 %<*11pt>
                    \@setfontsize\footnotesize\@ixpt{11}%
              241
                    \abovedisplayskip 8\p@ \@plus2\p@ \@minus4\p@
              242
                    \abovedisplayshortskip \z@ \@plus\p@
              243
                    \belowdisplayshortskip 4\p@ \@plus2\p@ \@minus2\p@
              244
                    \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
              245
              246
                                \topsep 4\p@ \@plus2\p@ \@minus2\p@
              247
                                \parsep 2\p0 \0plus\p0 \0minus\p0
              248
                                \itemsep \parsep}%
              249 %</11pt>
              250 %<*12pt>
                    \@setfontsize\footnotesize\@xpt\@xiipt
                    \abovedisplayskip 10\p0 \@plus2\p0 \@minus5\p0
                    \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
              253
                   \belowdisplayshortskip 6\p@ \@plus3\p@ \@minus3\p@
              254
                    \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
              255
                                \topsep 6\p0 \@plus2\p0 \@minus2\p0
              256
                                \parsep 3\\p0 \\qplus2\\p0 \\qminus\\p0
              257
                                \itemsep \parsep}%
              258
              259 %</12pt>
                  \belowdisplayskip \abovedisplayskip}
  \scriptsize これらは先ほどのマクロよりも簡単です。これらはフォントサイズを変更するだけ
        \tiny で、リスト環境とディスプレイ数式のパラメータは変更しません。
       \large 261 %<*10pt>
              262 \newcommand{\scriptsize}{\@setfontsize\scriptsize\@viipt\@viiipt}
              263 \newcommand{\tiny}{\@setfontsize\tiny\@vpt\@vipt}
       \label{large} $$ \LARGE $$ 264 \rightarrow {\large}_{\large}_{\large} \
        \label{large} $$ \mathbf{2}65 \end{\operatorname{Large}}(\operatorname{Contsize}\operatorname{Large}(\operatorname{Contsize}) $$
              266 \newcommand{\LARGE}{\@setfontsize\LARGE\@xviipt{25}}
        \Huge 267 \newcommand{\huge}{\@setfontsize\huge\@xxpt{28}}
              268 \newcommand{\Huge}{\@setfontsize\Huge\@xxvpt{33}}
              269 %</10pt>
              270 %<*11pt>
              271 \newcommand{\scriptsize}{\@setfontsize\scriptsize\@viiipt{9.5}}
              272 \newcommand{\tiny}{\@setfontsize\tiny\@vipt\@viipt}
              273 \newcommand{\large}{\@setfontsize\large\@xiipt{17}}
```

```
274 \newcommand{\Large}{\@setfontsize\Large\@xivpt{21}}
275 \newcommand{\LARGE}{\@setfontsize\LARGE\@xviipt{25}}
276 \newcommand{\huge}{\@setfontsize\huge\@xxpt{28}}
277 \newcommand{\Huge}{\@setfontsize\Huge\@xxvpt{33}}
278 %</11pt>
279 %<*12pt>
280 \newcommand{\scriptsize}{\@setfontsize\scriptsize\@viiipt{9.5}}
281 \newcommand{\tiny}{\@setfontsize\tiny\@vipt\@viipt}
282 \newcommand{\large}{\@setfontsize\large\@xivpt{21}}
283 \newcommand{\Large}{\@setfontsize\Large\@xviipt{25}}
284 \newcommand{\LARGE}{\@setfontsize\LARGE\@xxvpt{28}}
\newcommand{\huge}{\@setfontsize\huge\@xxvpt{33}}
286 \let\Huge=\huge
287 %</12pt>
288 %</10pt|11pt|12pt>
```

6 レイアウト

6.1 用紙サイズの決定

\columnsep \columnsep は、二段組のときの、左右(あるいは上下)の段間の幅です。このス \columnseprule ペースの中央に \columnseprule の幅の罫線が引かれます。

289 %<*article|report|book>

290 \if@stysize

291 %<tate> \setlength\columnsep{3\Cwd}

292 %<yoko> \setlength\columnsep{2\Cwd}

293 \else

294 \setlength\columnsep{10\p0}

295 \fi

296 \setlength\columnseprule{0\p0}

\pagewidth 出力の PDF の用紙サイズをここで設定しておきます。tombow が真のときは 2 イン \pageheight チ足しておきます。

\stockwidth [2015-10-18 LTJ] $LuaT_EX$ 0.81.0 ではプリミティブの名称変更がされたので、そ\stockheight れに合わせておきます。

[2016-07-19 LTJ] luatex.def が新しくなったことに対応する aminophen さんのパッチを取り込みました。

[2017-01-17 LTJ] [lt]jsclasses に合わせ、トンボオプションが指定されているとき「だけ」\stockwidth、\stockheight を定義するようにしました。aminophen さん、ありがとうございます.

297 \iftombow

298 \newlength{\stockwidth}

299 \newlength{\stockheight}

300 \setlength{\stockwidth}{\paperwidth}

301 \setlength{\stockheight}{\paperheight}

```
\advance \stockwidth 2in
302
     \advance \stockheight 2in
303
     \ifdefined\pdfpagewidth
304
       \setlength{\pdfpagewidth}{\stockwidth}
305
       \setlength{\pdfpageheight}{\stockheight}
306
307
308
       \setlength{\pagewidth}{\stockwidth}
       \setlength{\pageheight}{\stockheight}
309
     \fi
310
311 \else
     \ifdefined\pdfpagewidth
312
       \setlength{\pdfpagewidth}{\paperwidth}
313
       \setlength{\pdfpageheight}{\paperheight}
314
315
       \setlength{\pagewidth}{\paperwidth}
316
       \setlength{\pageheight}{\paperheight}
317
     \fi
318
319 \fi
```

6.2段落の形

\lineskip これらの値は、行が近付き過ぎたときの TFX の動作を制御します。 \normallineskip 320 \setlength\lineskip{1\p0} 321 \setlength\normallineskip{1\p0}

\baselinestretch これは、\baselineskip の倍率を示すために使います。 デフォルトでは、何もしませ ん。このコマンドが "empty" でない場合、\baselineskip の指定の plus や minus 部分は無視されることに注意してください。

322 \renewcommand{\baselinestretch}{}

\parskip \parskip は段落間に挿入される、縦方向の追加スペースです。\parindent は段落 \parindent の先頭の字下げ幅です。

```
323 \setlength\parskip{0\p0 \@plus \p0}
324 \setlength\parindent{1\Cwd}
```

これら3つのパラメータの値は、LATeX カーネルの中で設定されています。これら \smallskipamount はおそらく、サイズオプションの指定によって変えるべきです。しかし、IATeX 2.09 \medskipamount や $ext{IAT}_{ ext{FX}} ext{2}_{arepsilon}$ の以前のリリースの両方との互換性を保つために、これらはまだ同じ値 \bigskipamount としています。

```
325 %<*10pt | 11pt | 12pt>
```

326 \setlength\smallskipamount{3\p0 \@plus 1\p0 \@minus 1\p0}

327 \setlength\medskipamount{6\p@ \@plus 2\p@ \@minus 2\p@}

328 \setlength\bigskipamount{12\p@ \@plus 4\p@ \@minus 4\p@}

329 %</10pt | 11pt | 12pt>

\@lowpenalty \nopagebreakと\nolinebreak コマンドは、これらのコマンドが置かれた場所に、 \@medpenalty ペナルティを起いて、分割を制御します。置かれるペナルティは、コマンドの引数に \@highpenalty よって、\@lowpenalty, \@medpenalty, \@highpenalty のいずれかが使われます。

330 \@lowpenalty 51
331 \@medpenalty 151
332 \@highpenalty 301
333 %</article|report|book>

6.3 ページレイアウト

6.3.1 縦方向のスペース

\headheight \headheight は、ヘッダが入るボックスの高さです。\headsep は、ヘッダの下端 \headsep と本文領域との間の距離です。\topskip は、本文領域の上端と1行目のテキスト \topskip のベースラインとの距離です。

334 %<*10pt | 11pt | 12pt> 335 \setlength\headheight{12\p0} 336 %<*tate> 337 \if@stysize \ifnum\c@@paper=2 % A5 338 \setlength\headsep{6mm} 339 \else % A4, B4, B5 and other 340 341 \setlength\headsep{8mm} 342 \fi 343 \else \setlength\headsep{8mm} 344 345 \fi 346 %</tate>

 $347 \%<*yoko> 348 \%<!bk>\setlength\headsep{25\p@} 349 \%<10pt&bk>\setlength\headsep{.25in} 350 \%<11pt&bk>\setlength\headsep{.275in} 351 \%<12pt&bk>\setlength\headsep{.275in} 352 \%</yoko>$

353 \setlength\topskip{1\Cht}

\footskip \footskip は、本文領域の下端とフッタの下端との距離です。フッタのボックスの高さを示す、\footheight は削除されました。

 $354 \<\text{tate}\setminus \left\{14mm\right\} \\ 355 \<\text{**yoko} \\ 356 \<\text{!bk}\setminus \left\{10pt\&bk\right\} \\ 357 \<10pt\&bk\right\} \\ 358 \<11pt\&bk\right\} \\ 358 \<12pt\&bk\right\} \\ 360 \<\text{!chocker} \\ 30\p@$

```
361 \if@compatibility
362 \setlength\maxdepth{4\p@}
363 \else
364 \setlength\maxdepth{.5\topskip}
365 \fi
```

6.3.2 本文領域

\textheight と\textwidth は、本文領域の通常の高さと幅を示します。縦組でも横組でも、"高さ"は行数を、"幅"は字詰めを意味します。後ほど、これらの長さに\topskip の値が加えられます。

\textwidth 基本組の字詰めです。

互換モードの場合:

366 \if@compatibility

互換モード:a4jやb5jのクラスオプションが指定された場合の設定:

```
367
     \if@stvsize
       \ifnum\c@@paper=2 % A5
368
369
         \if@landscape
370 %<10pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{47\Cwd}
371 %<11pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{42\Cwd}
372 %<12pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{40\Cwd}
373 %<10pt&tate>
                        \setlength\textwidth{27\Cwd}
374 %<11pt&tate>
                        \setlength\textwidth{25\Cwd}
375 %<12pt&tate>
                        \setlength\textwidth{23\Cwd}
376
         \else
                        \stingth\textwidth{28\Cwd}
377 %<10pt&yoko>
378 %<11pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{25\Cwd}
379 %<12pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{24\Cwd}
380 %<10pt&tate>
                        \setlength\textwidth{46\Cwd}
381 %<11pt&tate>
                        \setlength\textwidth{42\Cwd}
382 %<12pt&tate>
                        \setlength\textwidth{38\Cwd}
383
         \fi
384
       \else\ifnum\c@@paper=3 % B4
         \if@landscape
                        \setlength\textwidth{75\Cwd}
386 %<10pt&yoko>
387 %<11pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{69\Cwd}
388 %<12pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{63\Cwd}
389 %<10pt&tate>
                        \setlength\textwidth{53\Cwd}
390 %<11pt&tate>
                        \setlength\textwidth{49\Cwd}
```

```
391 %<12pt&tate>
                        \setlength\textwidth{44\Cwd}
         \else
392
393 %<10pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{60\Cwd}
                        \setlength\textwidth{55\Cwd}
394 %<11pt&yoko>
395 %<12pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{50\Cwd}
396 %<10pt&tate>
                        \setlength\textwidth{85\Cwd}
397 %<11pt&tate>
                        \setlength\textwidth{76\Cwd}
398 %<12pt&tate>
                        \setlength\textwidth{69\Cwd}
399
         \fi
       \else\ifnum\c@@paper=4 % B5
400
         \if@landscape
401
                        \setlength\textwidth{60\Cwd}
402 %<10pt&yoko>
403 %<11pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{55\Cwd}
404 %<12pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{50\Cwd}
405 %<10pt&tate>
                        \setlength\textwidth{34\Cwd}
406 %<11pt&tate>
                        \setlength\textwidth{31\Cwd}
407 %<12pt&tate>
                        \setlength\textwidth{28\Cwd}
         \else
408
409 %<10pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{37\Cwd}
410 %<11pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{34\Cwd}
411 %<12pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{31\Cwd}
412 %<10pt&tate>
                        \setlength\textwidth{55\Cwd}
413 %<11pt&tate>
                        \setlength\textwidth{51\Cwd}
414 %<12pt&tate>
                        \setlength\textwidth{47\Cwd}
415
       \else % A4 ant other
416
         \if@landscape
417
418 %<10pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{73\Cwd}
419 %<11pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{68\Cwd}
420 %<12pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{61\Cwd}
421 %<10pt&tate>
                        \setlength\textwidth{41\Cwd}
422 %<11pt&tate>
                        \setlength\textwidth{38\Cwd}
423 %<12pt&tate>
                        \setlength\textwidth{35\Cwd}
         \else
425 %<10pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{47\Cwd}
426 %<11pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{43\Cwd}
427 %<12pt&yoko>
                        \setlength\textwidth{40\Cwd}
428 %<10pt&tate>
                        \setlength\textwidth{67\Cwd}
429 %<11pt&tate>
                        \setlength\textwidth{61\Cwd}
430 %<12pt&tate>
                        \setlength\textwidth{57\Cwd}
         \fi
432
       \fi\fi\fi
433
     \else
 互換モード:デフォルト設定
       \if@twocolumn
434
         \setlength\textwidth{52\Cwd}
435
436
       \else
437 %<10pt&!bk&yoko>
                          \setlength\textwidth{327\p0}
438 %<11pt&!bk&yoko>
                          \setlength\textwidth{342\p0}
```

```
439 %<12pt&!bk&yoko>
                         \setlength\textwidth{372\p0}
440 %<10pt&bk&yoko>
                        \setlength\textwidth{4.3in}
441 %<11pt&bk&yoko>
                        \setlength\textwidth{4.8in}
442 %<12pt&bk&yoko>
                        \setlength\textwidth{4.8in}
443 %<10pt&tate>
                     \setlength\textwidth{67\Cwd}
444 %<11pt&tate>
                     \setlength\textwidth{61\Cwd}
445 %<12pt&tate>
                     \setlength\textwidth{57\Cwd}
       \fi
     \fi
447
2e モードの場合:
448 \else
2e モード: a4j や b5j のクラスオプションが指定された場合の設定:二段組では用
紙サイズの8割、一段組では用紙サイズの7割を版面の幅として設定します。
     \if@stysize
449
450
       \if@twocolumn
451 %<yoko>
                \setlength\textwidth{.8\paperwidth}
                \setlength\textwidth{.8\paperheight}
452 %<tate>
453
       \else
                \setlength\textwidth{.7\paperwidth}
454 %<yoko>
455 %<tate>
                \setlength\textwidth{.7\paperheight}
456
       \fi
     \else
457
2e モード:デフォルト設定
458 %<tate>
              \setlength\@tempdima{\paperheight}
459 %<yoko>
              \setlength\@tempdima{\paperwidth}
       \addtolength\@tempdima{-2in}
460
461 %<tate>
              \addtolength\@tempdima{-1.3in}
462 %<yoko&10pt>
                   \setlength\@tempdimb{327\p@}
463 %<yoko&11pt>
                   \setlength\@tempdimb{342\p@}
464 %<yoko&12pt>
                   \setlength\@tempdimb{372\p@}
465 %<tate&10pt>
                   \setlength\@tempdimb{67\Cwd}
466 %<tate&11pt>
                   \setlength\@tempdimb{61\Cwd}
467 %<tate&12pt>
                   \setlength\@tempdimb{57\Cwd}
468
       \if@twocolumn
         \ifdim\@tempdima>2\@tempdimb\relax
469
470
           \setlength\textwidth{2\@tempdimb}
         \else
471
472
           \setlength\textwidth{\@tempdima}
         \fi
473
474
       \else
         \ifdim\@tempdima>\@tempdimb\relax
475
           \setlength\textwidth{\@tempdimb}
476
477
           \setlength\textwidth{\@tempdima}
478
         \fi
479
480
       \fi
```

481

\fi

```
482 \fi
            483 \ensuremath{\mbox{\sc dester}}
             基本組の行数です。
\textheight
               互換モードの場合:
            484 \if@compatibility
             互換モード:a4j や b5j のクラスオプションが指定された場合の設定:
                 \if@stysize
            485
                    \ifnum\c@@paper=2 % A5
            486
            487
                     \if@landscape
                                    \setlength\textheight{17\Cvs}
            488 %<10pt&yoko>
            489 %<11pt&yoko>
                                    \setlength\textheight{17\Cvs}
            490 %<12pt&voko>
                                    \setlength\textheight{16\Cvs}
            491 %<10pt&tate>
                                    \setlength\textheight{26\Cvs}
            492 %<11pt&tate>
                                    \setlength\textheight{26\Cvs}
            493 %<12pt&tate>
                                    \setlength\textheight{25\Cvs}
                     \else
            495 %<10pt&yoko>
                                    \setlength\textheight{28\Cvs}
            496 %<11pt&yoko>
                                    \setlength\textheight{25\Cvs}
            497 %<12pt&yoko>
                                    \setlength\textheight{24\Cvs}
            498 %<10pt&tate>
                                    \setlength\textheight{16\Cvs}
            499 %<11pt&tate>
                                    \setlength\textheight{16\Cvs}
            500 %<12pt&tate>
                                    \setlength\textheight{15\Cvs}
            501
                     \fi
            502
                    \else\ifnum\c@@paper=3 % B4
                     \if@landscape
            504 %<10pt&yoko>
                                    \setlength\textheight{38\Cvs}
            505 %<11pt&yoko>
                                    \setlength\textheight{36\Cvs}
            506 %<12pt&yoko>
                                    \setlength\textheight{34\Cvs}
            507 %<10pt&tate>
                                    \setlength\textheight{48\Cvs}
            508 %<11pt&tate>
                                    \setlength\textheight{48\Cvs}
            509 %<12pt&tate>
                                    \setlength\textheight{45\Cvs}
            510
                     \else
            511 %<10pt&yoko>
                                    \setlength\textheight{57\Cvs}
            512 %<11pt&yoko>
                                    \setlength\textheight{55\Cvs}
            513 %<12pt&yoko>
                                    \setlength\textheight{52\Cvs}
            514 %<10pt&tate>
                                    \setlength\textheight{33\Cvs}
            515 %<11pt&tate>
                                    \setlength\textheight{33\Cvs}
            516 %<12pt&tate>
                                    \setlength\textheight{31\Cvs}
            517
                    \else\ifnum\c@@paper=4 % B5
            518
                     \if@landscape
            519
                                    \setlength\textheight{22\Cvs}
            520 %<10pt&yoko>
            521 %<11pt&yoko>
                                    \setlength\textheight{21\Cvs}
            522 %<12pt&yoko>
                                    \setlength\textheight{20\Cvs}
            523 %<10pt&tate>
                                    \setlength\textheight{34\Cvs}
```

524 %<11pt&tate>

525 %<12pt&tate>

\setlength\textheight{34\Cvs}

\setlength\textheight{32\Cvs}

```
526
         \else
527 %<10pt&yoko>
                       \setlength\textheight{35\Cvs}
528 %<11pt&yoko>
                       \setlength\textheight{34\Cvs}
529 %<12pt&yoko>
                       \setlength\textheight{32\Cvs}
530 %<10pt&tate>
                       \setlength\textheight{21\Cvs}
531 %<11pt&tate>
                       \setlength\textheight{21\Cvs}
532 %<12pt&tate>
                       \setlength\textheight{20\Cvs}
533
534
       \else % A4 and other
         \if@landscape
535
                       \setlength\textheight{27\Cvs}
536 %<10pt&yoko>
537 %<11pt&yoko>
                       \setlength\textheight{26\Cvs}
538 %<12pt&yoko>
                       \setlength\textheight{25\Cvs}
539 %<10pt&tate>
                       \setlength\textheight{41\Cvs}
540 %<11pt&tate>
                       \setlength\textheight{41\Cvs}
                       \verb|\setlength| textheight{38\Cvs}|
541 %<12pt&tate>
         \else
542
543 %<10pt&yoko>
                       \setlength\textheight{43\Cvs}
544 %<11pt&yoko>
                       \setlength\textheight{42\Cvs}
545 %<12pt&yoko>
                       \setlength\textheight{39\Cvs}
546 %<10pt&tate>
                       \setlength\textheight{26\Cvs}
547 %<11pt&tate>
                       \setlength\textheight{26\Cvs}
548 %<12pt&tate>
                       \verb|\setlength| textheight{22\Cvs}|
549
         \fi
       \fi\fi\fi
550
551 %<yoko>
              \addtolength\textheight{\topskip}
552 %<bk&yoko>
                 \addtolength\textheight{\baselineskip}
553 %<tate>
              \addtolength\textheight{\Cht}
554 %<tate>
              \addtolength\textheight{\Cdp}
互換モード:デフォルト設定
555
    \else
556 %<10pt&!bk&yoko> \setlength\textheight{578\p0}
557 %<10pt&bk&yoko> \setlength\textheight{554\p0}
558 %<11pt&yoko> \setlength\textheight{580.4\p0}
559 %<12pt&yoko>
                \setlength\textheight{586.5\p0}
560 %<10pt&tate>
                \setlength\textheight{26\Cvs}
561 %<11pt&tate>
                \setlength\textheight{25\Cvs}
562 %<12pt&tate> \setlength\textheight{24\Cvs}
563 \fi
2e モードの場合:
564 \else
2e モード: a4j や b5j のクラスオプションが指定された場合の設定: 縦組では用紙サイ
 ズの 70%(book) か 78%(article, report)、横組では 70%(book) か 75%(article, report)
 を版面の高さに設定します。
    \if@stysize
566 %<tate&bk>
                 \setlength\textheight{.75\paperwidth}
```

```
567 %<tate&!bk>
                  \setlength\textheight{.78\paperwidth}
568 %<yoko&bk>
                 \setlength\textheight{.70\paperheight}
569 %<yoko&!bk>
                  \setlength\textheight{.75\paperheight}
2e モード:デフォルト値
570 \else
571 %<tate>
              \setlength\@tempdima{\paperwidth}
572 %<yoko>
              \setlength\@tempdima{\paperheight}
       \addtolength\@tempdima{-2in}
              \addtolength\@tempdima{-1.5in}
574 %<yoko>
575
       \divide\@tempdima\baselineskip
       \@tempcnta\@tempdima
576
577
       \setlength\textheight{\@tempcnta\baselineskip}
    \fi
578
579 \fi
最後に、\textheightに \topskip の値を加えます。
580 \addtolength\textheight{\topskip}
581 \@settopoint\textheight
6.3.3 マージン
```

\topmargin \topmargin は、"印字可能領域"—用紙の上端から1インチ内側— の上端からヘッダ部分の上端までの距離です。

2.09 互換モードの場合:

```
582 \if@compatibility
583 %<*yoko>
584
     \if@stysize
       \setlength\topmargin{-.3in}
585
586
    \else
587 %<!bk>
              \setlength\topmargin{27\p0}
588 %<10pt&bk>
                  \setlength\topmargin{.75in}
589 %<11pt&bk>
                  \setlength\topmargin{.73in}
590 %<12pt&bk>
                  \setlength\topmargin{.73in}
591 \fi
592 %</yoko>
593 %<*tate>
     \if@stysize
594
       \ifnum\c@@paper=2 % A5
595
         \setlength\topmargin{.8in}
596
597
       \else % A4, B4, B5 and other
         \setlength\topmargin{32mm}
598
       \fi
599
     \else
600
       \setlength\topmargin{32mm}
601
602
     \addtolength\topmargin{-1in}
603
604
     \addtolength\topmargin{-\headheight}
```

```
606 %</tate>
                2e モードの場合:
               607 \else
                    \setlength\topmargin{\paperheight}
               608
                    \addtolength\topmargin{-\headheight}
               609
                    \addtolength\topmargin{-\headsep}
               611 %<tate>
                           \addtolength\topmargin{-\textwidth}
               612 %<yoko> \addtolength\topmargin{-\textheight}
                    \verb|\addtolength| topmargin{-\footskip}|
               614
                    \if@stysize
                      \ifnum\c@@paper=2 % A5
               615
                        \addtolength\topmargin{-1.3in}
               616
               617
                        \addtolength\topmargin{-2.0in}
               618
               619
               620
                    \else
               621 %<yoko>
                             \addtolength\topmargin{-2.0in}
               622 %<tate>
                             \addtolength\topmargin{-2.8in}
                    \fi
                    \addtolength\topmargin{-.5\topmargin}
               624
               625 \fi
               626 \@settopoint\topmargin
                \marginparsep は、本文と傍注の間にあけるスペースの幅です。横組では本文の左
 \marginparsep
                (右)端と傍注、縦組では本文の下(上)端と傍注の間になります。\marginparpush
\marginparpush
                は、傍注と傍注との間のスペースの幅です。
               627 \if@twocolumn
                    \setlength\marginparsep{10\p0}
               629 \ensuremath{\setminus} else
                           \setlength\marginparsep{15\p0}
               630 %<tate>
               631 %<yoko> \setlength\marginparsep{10\p0}
               632 \fi
               633 %<tate>\setlength\marginparpush{7\p0}
               634 %<*yoko>
               635 %<10pt>\setlength\marginparpush{5\p0}
               636 %<11pt>\setlength\marginparpush{5\p0}
               637 %<12pt>\setlength\marginparpush{7\p0}
               638 %</yoko>
                まず、互換モードでの長さを示します。
\oddsidemargin
                  互換モード、縦組の場合:
\evensidemargin
\marginparwidth 639 \if@compatibility
               640 %<tate>
                            \setlength\oddsidemargin{0\p0}
               641 %<tate>
                            \setlength\evensidemargin{0\p0}
```

605 \addtolength\topmargin{-\headsep}

```
互換モード、横組、book クラスの場合:
642 %<*yoko>
643 %<*bk>
644 %<10pt>
              \setlength\oddsidemargin
                                         \{.5in\}
645 %<11pt>
              \setlength\oddsidemargin
                                         \{.25in\}
646 %<12pt>
              \setlength\oddsidemargin
                                         \{.25in\}
647 %<10pt>
              \setlength\evensidemargin
                                         \{1.5in\}
648 %<11pt>
              \setlength\evensidemargin {1.25in}
649 %<12pt>
              \setlength\evensidemargin {1.25in}
650 %<10pt>
              \setlength\marginparwidth {.75in}
651 %<11pt>
              \setlength\marginparwidth {1in}
652 %<12pt>
              \setlength\marginparwidth {1in}
653 %</bk>
互換モード、横組、report と article クラスの場合:
654 %<*!bk>
655
       \if@twoside
656 %<10pt>
                \setlength\oddsidemargin
                                           {44\p@}
657 %<11pt>
                \setlength\oddsidemargin
                                           {36\p@}
658 %<12pt>
                                           \{21\p0\}
                \setlength\oddsidemargin
659 %<10pt>
                \setlength\evensidemargin
                                           {82\p@}
660 %<11pt>
                \setlength\evensidemargin
                                           {74\p@}
661 %<12pt>
                \setlength\evensidemargin {59\p0}
662 %<10pt>
                \setlength\marginparwidth {107\p@}
663 %<11pt>
                \setlength\marginparwidth {100\p0}
664 %<12pt>
                \setlength\marginparwidth {85\p0}
       \else
666 %<10pt>
               \setlength\oddsidemargin
                                           {60\p@}
667 %<11pt>
               \setlength\oddsidemargin
                                           {54\p@}
                                          {39.5\p@}
668 %<12pt>
               \setlength\oddsidemargin
669 %<10pt>
               \setlength\evensidemargin
                                          {60\p@}
                                           {54\p@}
670 %<11pt>
               \setlength\evensidemargin
671 %<12pt>
               \setlength\evensidemargin
                                          {39.5\p0}
672 %<10pt>
               \setlength\marginparwidth
                                           {90\p@}
673 %<11pt>
               \setlength\marginparwidth
                                          {83\p@}
674 %<12pt>
               \setlength\marginparwidth
                                          {68\p@}
675 \fi
676 %</!bk>
 互換モード、横組、二段組の場合:
677
     \if@twocolumn
        \setlength\oddsidemargin {30\p0}
678
679
        \setlength\evensidemargin {30\p0}
        \setlength\marginparwidth {48\p0}
680
     \fi
681
682 %</yoko>
縦組、横組にかかわらず、スタイルオプション設定ではゼロです。
683
     \if@stysize
684
       \if@twocolumn\else
```

```
\setlength\oddsidemargin{0\p0}
685
686
         \setlength\evensidemargin{0\p0}
       \fi
687
     \fi
688
   互換モードでない場合:
689 \else
690 \setlength\@tempdima{\paperwidth}
            \addtolength\@tempdima{-\textheight}
            \addtolength\@tempdima{-\textwidth}
   \oddsidemargin を計算します。
     \if@twoside
              \setlength\oddsidemargin{.6\@tempdima}
694 %<tate>
695 %<yoko>
              \setlength\oddsidemargin{.4\@tempdima}
     \else
696
       \setlength\oddsidemargin{.5\@tempdima}
697
698
     \addtolength\oddsidemargin{-1in}
699
\evensidemargin を計算します。
     \setlength\evensidemargin{\paperwidth}
     \addtolength\evensidemargin{-2in}
701
702 %<tate> \addtolength\evensidemargin{-\textheight}
703 %<yoko> \addtolength\evensidemargin{-\textwidth}
     \addtolength\evensidemargin{-\oddsidemargin}
     \@settopoint\oddsidemargin % 1999.1.6
     \@settopoint\evensidemargin
                     を 計 算 し ま す。 こ こ で、\@tempdima
 \marginparwidth
                                                                   の値は、
\protect\ \paperwidth - \textwidth \protect\ of.
707 %<*yoko>
       \setlength\marginparwidth{.6\@tempdima}
709
710
       \addtolength\marginparwidth{-.4in}
711
     \else
       \setlength\marginparwidth{.5\@tempdima}
712
       \addtolength\marginparwidth{-.4in}
713
714
     \fi
     \ifdim \marginparwidth >2in
715
716
       \setlength\marginparwidth{2in}
717
718 %</yoko>
   縦組の場合は、少し複雑です。
719 %<*tate>
     \setlength\@tempdima{\paperheight}
720
     \addtolength\@tempdima{-\textwidth}
721
     \addtolength\@tempdima{-\topmargin}
     \addtolength\@tempdima{-\headheight}
```

```
\addtolength\@tempdima{-\headsep}
```

\addtolength\@tempdima{-\footskip} 725

726 \setlength\marginparwidth{.5\@tempdima}

727 %</tate>

728 \@settopoint\marginparwidth

729 \fi

6.4 脚注

\footnotesep

\footnotesep は、それぞれの脚注の先頭に置かれる"支柱"の高さです。このクラ スでは、通常の \footnotesize の支柱と同じ長さですので、脚注間に余計な空白 は入りません。

730 %<10pt>\setlength\footnotesep{6.65\p0}

731 %<11pt>\setlength\footnotesep{7.7\p0}

732 %<12pt>\setlength\footnotesep{8.4\p0}

\footins \skip\footins は、本文の最終行と最初の脚注との間の距離です。

733 %<10pt>\setlength{\skip\footins}{9\p0 \@plus 4\p0 \@minus 2\p0}

734 %<11pt>\setlength{\skip\footins}{10\p0 \@plus 4\p0 \@minus 2\p0}

735 %<12pt>\setlength{\skip\footins}{10.8\p@ \@plus 4\p@ \@minus 2\p@}

6.5 フロート

すべてのフロートパラメータは、LATeX のカーネルでデフォルトが定義されていま す。そのため、カウンタ以外のパラメータは \renewcommand で設定する必要があ ります。

6.5.1 フロートパラメータ

\floatsep フロートオブジェクトが本文のあるページに置かれるとき、フロートとそのページ \textfloatsep にある別のオブジェクトの距離は、これらのパラメータで制御されます。これらの \intextsep パラメータは、一段組モードと二段組モードの段抜きでないフロートの両方で使わ れます。

\floatsep は、ページ上部あるいは下部のフロート間の距離です。

\textfloatsep は、ページ上部あるいは下部のフロートと本文との距離です。

\intextsep は、本文の途中に出力されるフロートと本文との距離です。

736 %<*10pt>

737 \setlength\floatsep {12\p0 \0plus 2\p0 \0minus 2\p0}

738 \setlength\textfloatsep{20\p0 \0plus 2\p0 \0minus 4\p0}

739 \setlength\intextsep $\{12\p0\qn 2\p0\qn 2\p0\}$

740 %</10pt>

741 %<*11pt>

 $742 \stlength\floatsep$ {12\p@ \@plus 2\p@ \@minus 2\p@}

743 \setlength\textfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}

```
744 \setlength\intextsep {12\p0 \@plus 2\p0 \@minus 2\p0}
              745 %</11pt>
              746 %<*12pt>
              747 \setlength\floatsep
                                   {12\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
              748 \setlength\textfloatsep{20\p0 \@plus 2\p0 \@minus 4\p0}
              749 \setlength\intextsep \{14\p0 \q 4\p0 \q 4\p0 \q 4\p0 \}
              750 %</12pt>
   \dblfloatsep 二段組モードで、\textwidth の幅を持つ、段抜きのフロートオブジェクトが本
\dbltextfloatsep 文と同じページに置かれるとき、本文とフロートとの距離は、\dblfloatsep と
               \dbltextfloatsep によって制御されます。
                \dblfloatsep は、ページ上部あるいは下部のフロートと本文との距離です。
                \dbltextfloatsep は、ページ上部あるいは下部のフロート間の距離です。
              752 \setlength\dblfloatsep
                                      {12\p0 \0plus 2\p0 \0minus 2\p0}
              753 \setlength\dbltextfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
              754 %</10pt>
              755 %<*11pt>
                                      {12\p@ \@plus 2\p@ \@minus 2\p@}
              756 \setlength\dblfloatsep
              757 \setlength\dbltextfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
              758 %</11pt>
              759 %<*12pt>
                                      {14\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
              760 \setlength\dblfloatsep
              761 \setlength\dbltextfloatsep{20\p0 \@plus 2\p0 \@minus 4\p0}
              762 %</12pt>
       \@fptop フロートオブジェクトが、独立したページに置かれるとき、このページのレイアウ
               トは、次のパラメータで制御されます。これらのパラメータは、一段組モードか、二
              段組モードでの一段出力のフロートオブジェクトに対して使われます。
       \@fpbot
                ページ上部では、\@fptopの伸縮長が挿入されます。ページ下部では、\@fpbot
               の伸縮長が挿入されます。フロート間には \@fpsep が挿入されます。
                なお、そのページを空白で満たすために、\@fptopと\@fpbot の少なくともどち
               らか一方に、plus ...fil を含めてください。
              763 %<*10pt>
              764 \setlength\@fptop{0\p@ \@plus 1fil}
              765 \setlength\@fpsep{8\p@ \@plus 2fil}
              766 \setlength\@fpbot{0\p@ \@plus 1fil}
              767 %</10pt>
              768 %<*11pt>
              769 \setlength\@fptop{0\p@ \@plus 1fil}
              770 \setlength\@fpsep{8\p@ \@plus 2fil}
              771 \setlength\@fpbot{0\p@ \@plus 1fil}
              772 %</11pt>
              773 %<*12pt>
              774 \setlength\@fptop{0\p@ \@plus 1fil}
```

\@fpsep

```
775 \setlength\@fpsep{10\p@ \@plus 2fil}
             776 \setlength\@fpbot{0\p@ \@plus 1fil}
             777 %</12pt>
    \@dblfptop 二段組モードでの二段抜きのフロートに対しては、これらのパラメータが使われ
    \@dblfpsep ます。
    \@dblfpbot 778 %<*10pt>
             779 \setlength\@dblfptop{0\p@ \@plus 1fil}
             780 \setlength\@dblfpsep{8\p@ \@plus 2fil}
             781 \setlength\@dblfpbot{0\p@ \@plus 1fil}
             782 %</10pt>
             783 %<*11pt>
             784 \setlength\@dblfptop{0\p@ \@plus 1fil}
             785 \setlength\@dblfpsep{8\p@ \@plus 2fil}
             786 \setlength\@dblfpbot{0\p@ \@plus 1fil}
             787 %</11pt>
             788 %<*12pt>
             789 \setlength\@dblfptop{0\p@ \@plus 1fil}
             790 \setlength\@dblfpsep{10\p@ \@plus 2fil}
             791 \setlength\@dblfpbot{0\p@ \@plus 1fil}
             792 %</12pt>
             793 %</10pt | 11pt | 12pt>
              6.5.2 フロートオブジェクトの上限値
  \c@topnumber topnumber は、本文ページの上部に出力できるフロートの最大数です。
             794 %<*article|report|book>
             795 \setcounter{topnumber}{2}
\c@bottomnumber bottomnumber は、本文ページの下部に出力できるフロートの最大数です。
             796 \setcounter{bottomnumber}{1}
\c@totalnumber totalnumber は、本文ページに出力できるフロートの最大数です。
             797 \setcounter{totalnumber}{3}
\c@dbltopnumber dbltopnumber は、二段組時における、本文ページの上部に出力できる段抜きのフロー
              トの最大数です。
             798 \setcounter{dbltopnumber}{2}
  \topfraction これは、本文ページの上部に出力されるフロートが占有できる最大の割り合いです。
             799 \renewcommand{\topfraction}{.7}
\bottomfraction これは、本文ページの下部に出力されるフロートが占有できる最大の割り合いです。
```

800 \renewcommand{\bottomfraction}{.3}

\textfraction これは、本文ページに最低限、入らなくてはならない本文の割り合いです。
801 \renewcommand{\textfraction}{.2}

\floatpagefraction これは、フロートだけのページで最低限、入らなくてはならないフロートの割り合いです。

802 \renewcommand{\floatpagefraction}{.5}

\dbltopfraction これは、2段組時における本文ページに、2段抜きのフロートが占めることができる最大の割り合いです。

803 \renewcommand{\dbltopfraction}{.7}

\dblfloatpagefraction これは、2段組時におけるフロートだけのページに最低限、入らなくてはならない2段抜きのフロートの割り合いです。

804 \renewcommand{\dblfloatpagefraction}{.5}

7 改ページ(日本語 T_FX 開発コミュニティ版のみ)

\pltx@cleartorightpage
\pltx@cleartoleftpage
\pltx@cleartooddpage
\pltx@cleartoevenpage

\cleardoublepage 命令は、I = X カーネルでは「奇数ページになるまでページを 繰る命令」として定義されています。しかし $pI = T_E X$ カーネルでは、アスキーの方針 により「横組では奇数ページになるまで、縦組では偶数ページになるまでページを 繰る命令」に再定義されています。すなわち、 $pI = T_E X$ では縦組でも横組でも右ページになるまでページを繰ることになります。

 $pIAT_EX$ 標準クラスの book は、横組も縦組も openright がデフォルトになっていて、これは従来 $pIAT_EX$ カーネルで定義された \cleardoublepage を利用していました。しかし、縦組で奇数ページ始まりの文書を作りたい場合もあるでしょうから、コミュニティ版クラスでは以下の(非ユーザ向け)命令を追加します。

- 1. \pltx@cleartorightpage: 右ページになるまでページを繰る命令
- 2. \pltx@cleartoleftpage: 左ページになるまでページを繰る命令
- 3. \pltx@cleartooddpage: 奇数ページになるまでページを繰る命令
- 4. \pltx@cleartoevenpage: 偶数ページになるまでページを繰る命令
- 806 \unless\ifodd\numexpr\c@page+\ltjgetparameter{direction}\relax
- 807 \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
- 808 \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
- 809 \fi\fi}
- 810 \def\pltx@cleartoleftpage{\clearpage\if@twoside
- 811 \ifodd\numexpr\c@page+\ltjgetparameter{direction}\relax
- 812 \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
- 813 \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
- 814 \fi\fi}

\pltx@cleartooddpage は LATEX の \cleardoublepage に似ていますが、上の 2 つに合わせるため \thispagestyle{empty}を追加してあります。

```
815 \def\pltx@cleartooddpage{\clearpage\if@twoside
     \ifodd\c@page\else
817
       \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
       \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
818
819
     \fi\fi}
820 \def\pltx@cleartoevenpage{\clearpage\if@twoside
     \ifodd\c@page
       \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
822
       \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
823
     fi\fi
824
```

 $\verb|\cleardoublepage|$

そして report と book クラスの場合は、ユーザ向け命令である \cleardoublepage を、openright オプションが指定されている場合は \pltx@cleartorightpage に、openleft オプションが指定されている場合は \pltx@cleartoleftpage に、それぞれ \let します。openany の場合は pltxpx カーネルの定義のままです。

```
825 %<*!article>
826 \if@openleft
827 \let\cleardoublepage\pltx@cleartoleftpage
828 \else\if@openright
829 \let\cleardoublepage\pltx@cleartorightpage
830 \fi\fi
831 %</!article>
```

8 ページスタイル

つぎの6種類のページスタイルを使用できます。emptyは ltpage.dtx で定義されています。

```
empty ヘッダにもフッタにも出力しない plain フッタにページ番号のみを出力する headnombre ヘッダにページ番号のみを出力する footnombre フッタにページ番号のみを出力する headings ヘッダに見出しとページ番号を出力する bothstyle ヘッダに見出し、フッタにページ番号を出力するページスタイル foo は、\ps@foo コマンドとして定義されます。
```

\Cevenhead これらは \psC... から呼び出され、ヘッダとフッタを出力するマクロです。

```
\@oddhead \@oddhead 奇数ページのヘッダを出力 \@evenfoot \@oddfoot 奇数ページのフッタを出力 \@oddfoot 偶数ページのヘッダを出力 \@evenfoot 偶数ページのフッタを出力
```

これらの内容は、横組の場合は \textwidth の幅を持つ \hbox に入れられ、縦組の場合は \textheight の幅を持つ \hbox に入れられます。

8.1 マークについて

へッダに入る章番号や章見出しは、見出しコマンドで実行されるマークコマンドで決定されます。ここでは、実行されるマークコマンドの定義を行なっています。これらのマークコマンドは、 T_EX の \mark 機能を用いて、'left' と 'right' の 2 種類のマークを生成するように定義しています。

\markboth{ $\langle LEFT \rangle$ }{ $\langle RIGHT \rangle$ }: 両方のマークに追加します。

\markright{ $\langle RIGHT \rangle$ }: '右' マークに追加します。

\leftmark: \@oddhead, \@oddfoot, \@evenhead, \@evenfoot マクロで使われ、現在の"左"マークを出力します。\leftmark は T_{EX} の \botmark コマンドのような働きをします。初期値は空でなくてはいけません。

\rightmark: \@oddhead, \@oddfoot, \@evenhead, \@evenfoot マクロで使われ、現在の"右"マークを出力します。\rightmark は T_EX の \firstmark コマンドのような働きをします。初期値は空でなくてはいけません。

マークコマンドの動作は、左マークの'範囲内の' 右マークのために合理的になっています。たとえば、左マークは \chapter コマンドによって変更されます。そして右マークは \section コマンドによって変更されます。しかし、同一ページに複数の \markboth コマンドが現れたとき、おかしな結果となることがあります。

\tableofcontents のようなコマンドは、\@mkboth コマンドを用いて、あるページスタイルの中でマークを設定しなくてはなりません。\@mkboth は、\ps@...コマンドによって、\markboth(ヘッダを設定する)か、\@gobbletwo(何もしない)に \let されます。

8.2 plain ページスタイル

\ps@plain jpl@in に \let するために、ここで定義をします。

832 \def\ps@plain{\let\@mkboth\@gobbletwo

- 833 \let\ps@jpl@in\ps@plain
- 834 \let\@oddhead\@empty
- 835 \def\@oddfoot{\reset@font\hfil\thepage\hfil}%
- 836 \let\@evenhead\@empty
- 837 \let\@evenfoot\@oddfoot}

8.3 jpl@inページスタイル

\ps@jpl@in Jpl@in スタイルは、クラスファイル内部で使用するものです。IFTEX では、book クラスを headings としています。しかし、\tableofcontnts コマンドの内部では plain

として設定されるため、一つの文書でのページ番号の位置が上下に出力されること になります。

そこで、ここでは \tableof contents や \the index のページスタイルを jpl@in にし、実際に出力される形式は、ほかのページスタイルで \let をしています。したがって、headings のとき、目次ページのページ番号はヘッダ位置に出力され、plain のときには、フッタ位置に出力されます。

ここで、定義をしているのは、その初期値です。

838 \let\ps@jpl@in\ps@plain

8.4 headnombre ページスタイル

\ps@headnombre headnombre スタイルは、ヘッダにページ番号のみを出力します。

```
839 \def\ps@headnombre{\let\@mkboth\@gobbletwo
```

```
840 \let\ps@jpl@in\ps@headnombre
```

841 %<yoko> \def\@evenhead{\thepage\hfil}%

842 %<yoko> \def\@oddhead{\hfil\thepage}%

843 %<tate> \def\@evenhead{\hfil\thepage}%

844 %<tate> \def\@oddhead{\thepage\hfil}%

845 \let\@oddfoot\@empty\let\@evenfoot\@empty}

8.5 footnombre ページスタイル

\ps@footnombre footnombre スタイルは、フッタにページ番号のみを出力します。

846 \def\ps@footnombre{\let\@mkboth\@gobbletwo

847 \let\ps@jpl@in\ps@footnombre

848 %<yoko> \def\@evenfoot{\thepage\hfil}%

849 %<yoko> \def\@oddfoot{\hfil\thepage}%

850 %<tate> \def\@evenfoot{\hfil\thepage}%

851 %<tate> \def\@oddfoot{\thepage\hfil}%

852 \let\@oddhead\@empty\let\@evenhead\@empty}

8.6 headings スタイル

headings スタイルは、ヘッダに見出しとページ番号を出力します。

\ps@headings このスタイルは、両面印刷と片面印刷とで形式が異なります。

853 \if@twoside

横組の場合は、奇数ページが右に、偶数ページが左にきます。縦組の場合は、奇数ページが左に、偶数ページが右にきます。

854 \def\ps@headings{\let\ps@jpl@in\ps@headnombre

855 \let\@oddfoot\@empty\let\@evenfoot\@empty

856 %<yoko> \def\@evenhead{\thepage\hfil\leftmark}%

857 %<yoko> \def\@oddhead{{\rightmark}\hfil\thepage}%

858 %<tate> \def\@evenhead{{\leftmark}\hfil\thepage}%

```
859 %<tate>
               \def\@oddhead{\thepage\hfil\rightmark}%
       \let\@mkboth\markboth
860
861 %<*article>
       \def\sectionmark##1{\markboth{%
862
           \ifnum \c@secnumdepth >\z@ \thesection.\hskip1\zw\fi
863
864
           ##1}{}}%
865
        \def\subsectionmark##1{\markright{%
           \ifnum \c@secnumdepth >\@ne \thesubsection.\hskip1\zw\fi
866
867
868 %</article>
869 %<*report|book>
     \def\chaptermark##1{\markboth{%
        \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
872 %<book>
                    \if@mainmatter
873
             \@chapapp\thechapter\@chappos\hskip1\zw
874 %<book>
875
        \fi
        ##1}{}}%
876
877
     \def\sectionmark##1{\markright{%
878
        \ifnum \c@secnumdepth >\z@ \thesection.\hskip1\zw\fi
879
880 %</report|book>
881 }
 片面印刷の場合:
882 \ensuremath{\, \backslash \,} else \% if not twoside
883
     \def\ps@headings{\let\ps@jpl@in\ps@headnombre
884
       \let\@oddfoot\@empty
885 %<yoko>
               \def\@oddhead{{\rightmark}\hfil\thepage}%
886 %<tate>
               \def\@oddhead{\thepage\hfil\rightmark}%
        \let\@mkboth\markboth
887
888 %<*article>
     \def\sectionmark##1{\markright{%
889
890
        \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne \thesection.\hskip1\zw\fi
        ##1}}%
891
892 %</article>
893 %<*report|book>
894 \def\chaptermark##1{\markright{%
      \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
895
                    \if@mainmatter
896 %<book>
           \@chapapp\thechapter\@chappos\hskip1\zw
897
898 %<book>
                    \fi
      ##1}}%
900
901 %</report | book>
902 }
903 \fi
```

8.7 bothstyle スタイル

\ps@bothstyle bothstyle スタイルは、ヘッダに見出しを、フッタにページ番号を出力します。 このスタイルは、両面印刷と片面印刷とで形式が異なります。

```
904 \if@twoside
905 \def\ps@bothstyle{\let\ps@jpl@in\ps@footnombre
906 %<*yoko>
       \def\@evenhead{\leftmark\hfil}% right page
907
908
       \def\@evenfoot{\thepage\hfil}% right page
       \def\@oddhead{\hfil\rightmark}% left page
909
       \def\@oddfoot{\hfil\thepage}% left page
910
911 %</yoko>
912 %<*tate>
       \def\@evenhead{\hfil\leftmark}% right page
913
       \def\@evenfoot{\hfil\thepage}% right page
914
915
       \def\@oddhead{\rightmark\hfil}% left page
916
       \def\@oddfoot{\thepage\hfil}% left page
917 %</tate>
918 \let\@mkboth\markboth
919 %<*article>
     \def\sectionmark##1{\markboth{%
920
921
        \ifnum \c@secnumdepth >\z@ \thesection.\hskip1\zw\fi
        ##1}{}}%
     \def\subsectionmark##1{\markright{%
923
924
        \ifnum \c@secnumdepth >\@ne \thesubsection.\hskip1\zw\fi
        ##1}}%
925
926 %</article>
927 %<*report|book>
928 \def\chaptermark##1{\markboth{%
        \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
930 %<book>
                    \if@mainmatter
            \@chapapp\thechapter\@chappos\hskip1\zw
931
932 %<book>
                    \fi
933
        \fi
934
        ##1}{}}%
935
     \def\sectionmark##1{\markright{%
        \ifnum \c@secnumdepth >\z@ \thesection.\hskip1\zw\fi
936
937
        ##1}}%
938 %</report|book>
    }
940 \ensuremath{\, \backslash \,} if one column
941 \def\ps@bothstyle{\let\ps@jpl@in\ps@footnombre
942 %<yoko>
               \def\@oddhead{\hfil\rightmark}%
943 %<yoko>
               \def\@oddfoot{\hfil\thepage}%
944 %<tate>
               \def\@oddhead{\rightmark\hfil}%
945 %<tate>
               \def\@oddfoot{\thepage\hfil}%
       \let\@mkboth\markboth
947 %<*article>
948 \def\sectionmark##1{\markright{%
```

```
\ifnum \c@secnumdepth >\m@ne \thesection.\hskip1\zw\fi
949
950
        ##1}}%
951 %</article>
952 %<*report|book>
     \def\chaptermark##1{\markright{%
        \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
955 %<book>
                    \if@mainmatter
             \@chapapp\thechapter\@chappos\hskip1\zw
956
957 %<book>
                    \fi
958
        \fi
        ##1}}%
959
960 %</report|book>
961
962 \fi
```

8.8 myheading スタイル

\ps@myheadings myheadings ページスタイルは簡潔に定義されています。ユーザがページスタイル を設計するときのヒナ型として使用することができます。

```
963 \def\ps@myheadings{\let\ps@jpl@in\ps@plain%
964 \let\@oddfoot\@empty\let\@evenfoot\@empty
965 %<yoko> \def\@evenhead{\thepage\hfil\leftmark}\%
966 %<yoko> \def\@oddhead{{\rightmark}\hfil\thepage}\%
967 %<tate> \def\@evenhead{{\leftmark}\hfil\thepage}\%
968 %<tate> \def\@oddhead{\thepage\hfil\rightmark}\%
969 \let\@mkboth\@gobbletwo
970 %<!article> \let\chaptermark\@gobble
971 \let\sectionmark\@gobble
972 %<article> \let\subsectionmark\@gobble
973 }
```

9 文書コマンド

9.1 表題

\title 文書のタイトル、著者、日付の情報のための、これらの3つのコマンドはltsect.dtx \author で提供されています。これらのコマンドは次のように定義されています。 \date 974 %\newcommand*{\title}[1]{\gdef\@title{#1}} 975 %\newcommand*{\author}[1]{\gdef\@author{#1}}

976 %\newcommand*{\date}[1]{\gdef\@date{#1}} \date マクロのデフォルトは、今日の日付です。
977 %\date{\today}

titlepage 通常の環境では、ページの最初と最後を除き、タイトルページ環境は何もしません。 また、ページ番号の出力を抑制します。レポートスタイルでは、ページ番号を1に リセットし、そして最後で1に戻します。互換モードでは、ページ番号はゼロに設定されますが、右起こしページ用のページパラメータでは誤った結果になります。 二段組スタイルでも一段組のページが作られます。

日本語 $T_E X$ 開発コミュニティによる変更:上にあるのはアスキー版の説明です。改めてアスキー版の挙動を整理すると、以下のようになります。

- 1. アスキー版では、タイトルページの番号を必ず1にリセットしていましたが、これは正しくありません。これは、タイトルページが奇数ページ目か偶数ページ目かにかかわらず、レイアウトだけ奇数ページ用が適用されてしまうからです。さらに、タイトルの次のページも偶数のページ番号を持ってしまうため、両面印刷で奇数ページと偶数ページが交互に出なくなるという問題もあります。
- 2. アスキー版 book クラスは、タイトルページを必ず \cleardoublepage で始めていました。pLATeX カーネルでの \cleardoublepage の定義から、縦組の既定ではタイトルが偶数ページ目に出ることになります。これ自体が正しくないと断定することはできませんが、タイトルのページ番号を1にリセットすることと合わさって、偶数ページに送ったタイトルに奇数ページ用レイアウトが適用されてしまうという結果は正しくありません。

そこで、コミュニティ版ではタイトルのレイアウトが必ず奇数ページ用になるという挙動を支持し、book クラスではタイトルページを奇数ページ目に送ることにしました。これでタイトルページが表紙らしく見えるようになります。また、report クラスのようなタイトルが成り行きに従って出る場合には

- 奇数ページ目に出る場合、ページ番号を1(奇数)にリセット
- 偶数ページ目に出る場合、ページ番号を 0 (偶数) にリセット

としました。

一つめの例を考えます。

\documentclass{tbook}
\title{タイトル}\author{著者}
\begin{document}
\maketitle
\chapter{チャプター}
\end{document}

アスキー版 tbook クラスでの結果は

1ページ目:空白(ページ番号1は非表示)

2ページ目:タイトル(奇数レイアウト、ページ番号1は非表示)

3ページ目:チャプター(偶数レイアウト、ページ番号 2)

ですが、仮に最初の空白ページさえなければ

1ページ目:タイトルすなわち表紙(奇数レイアウト、ページ番号1は非表示)

2ページ目:チャプター (偶数レイアウト、ページ番号 2)

とみなせるため、コミュニティ版では空白ページを発生させないようにしました。 二つめの例を考えます。

\documentclass{tbook}
\title{タイトル}\author{著者}
\begin{document}
テスト文章
\maketitle
\chapter{チャプター}
\end{document}

アスキー版 tbook クラスでの結果は

1ページ目:テスト文章(奇数レイアウト、ページ番号1)

2ページ目:タイトル(奇数レイアウト、ページ番号1は非表示)

3ページ目:チャプター(偶数レイアウト、ページ番号 2)

ですが、これでは奇数と偶数のページ番号が交互になっていないので正しくありません。そこで、コミュニティ版では

1ページ目:テスト文章(奇数レイアウト、ページ番号1)

2ページ目:空白ページ(ページ番号2は非表示)

3ページ目:タイトル(奇数レイアウト、ページ番号1は非表示)

4ページ目:チャプター(偶数レイアウト、ページ番号 2)

と直しました。

なお、pIATeX 2.09 互換モードはアスキー版のまま、すなわち「ページ番号をゼロに設定」としてあります。これは、横組の右起こしの挙動としては誤りですが、縦組の右起こしの挙動としては一応正しくなっているといえます。

最初に互換モードの定義を作ります。

```
978 \if@compatibility
979 \newenvironment{titlepage}
980
       {%
981 %<book>
                \cleardoublepage
982
        \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn
983
        \else\@restonecolfalse\newpage\fi
        \thispagestyle{empty}%
984
        \setcounter{page}\z0
985
986
       }%
987
       {\if@restonecol\twocolumn\else\newpage\fi
```

そして、LATeX ネイティブのための定義です。

 $989 \ensuremath{\setminus} else$

```
990 \newenvironment{titlepage}
         991
               {%
                      \pltx@cleartooddpage %% 2017/02/15
         992 %<book>
                \if@twocolumn
         993
                  \@restonecoltrue\onecolumn
         994
         995
                \else
         996
                  \@restonecolfalse\newpage
         997
                \fi
                \thispagestyle{empty}%
         998
                999
        1000
               {\if@restonecol\twocolumn \else \newpage \fi
        1001
          両面モードでなければ、タイトルページの直後のページのページ番号も1にします。
        1002
                \if@twoside\else
        1003
                  \setcounter{page}\@ne
        1004
                \fi
               }
        1005
        1006 \fi
\maketitle このコマンドは、表題を作成し、出力します。表題ページを独立させるかどうかに
          よって定義が異なります。report と book クラスのデフォルトは独立した表題です。
         article クラスはオプションで独立させることができます。
 \p@thanks 縦組のときは、\thanks コマンドを \p@thanks に \let します。このコマンドは
         \footnotetext を使わず、直接、文字を \@thanks に格納していきます。
           著者名の脇に表示される合印は直立した数字、注釈側は横に寝た数字となってい
          ましたが、不自然なので \hbox{\yoko ...}を追加し、両方とも直立するようにし
          ました。
        1007 \def\p@thanks#1{\footnotemark
             \protected@xdef\@thanks{\@thanks
        1009
               \protect{\noindent\hbox{\yoko$\m@th^\thefootnote$}#1\protect\par}}}
        1010 \if@titlepage
             \newcommand{\maketitle}{\begin{titlepage}%
        1011
             \let\footnotesize\small
        1012
        1013
             \let\footnoterule\relax
        1014 % <tate> \let\thanks\p@thanks
            \let\footnote\thanks
        1016 %<tate> \vbox to\textheight\bgroup\tate\hsize\textwidth
             \null\vfil
        1017
        1018
             \vskip 60\p@
        1019
             \begin{center}%
        1020
               {\LARGE \@title \par}%
        1021
               \vskip 3em%
        1022
               {\Large
        1023
               \lineskip .75em%
```

```
\begin{tabular}[t]{c}%
1024
           \@author
1025
         \end{tabular}\par}%
1026
         \vskip 1.5em%
1027
       {\large \@date \par}%
                                  % Set date in \large size.
1028
1029
     \end{center}\par
1030 %<tate>
            \vfil{\centering\@thanks}\vfil\null
1031 %<tate>
            \egroup
1032 %<yoko> \@thanks\vfil\null
     \end{titlepage}%
 footnote カウンタをリセットし、\thanks と \maketitle コマンドを無効にし、い
  くつかの内部マクロを空にして格納領域を節約します。
     \setcounter{footnote}{0}%
1034
     \global\let\thanks\relax
1035
1036
     \global\let\maketitle\relax
     \global\let\p@thanks\relax
1037
     \global\let\@thanks\@empty
1038
1039
     \global\let\@author\@empty
1040
     \global\let\@date\@empty
     \global\let\@title\@empty
 タイトルが組版されたら、\title コマンドなどの宣言を無効にできます。\and の
 定義は、\author の引数でのみ使用しますので、破棄します。
     \global\let\title\relax
1042
1043
     \global\let\author\relax
     \global\let\date\relax
1044
1045
     \global\let\and\relax
     }%
1046
1047 \else
     \newcommand{\maketitle}{\par
1048
     \begingroup
1049
       \renewcommand{\thefootnote}{\fnsymbol{footnote}}%
1050
1051
       \def\@makefnmark{\hbox{\unless\ifnum\ltjgetparameter{direction}=3 $\m@th^{\@thefnmark}$
1052
         \else\hbox{\yoko$\m@th^{\@thefnmark}$}\fi}}%
1053 %<*tate>
       \long\def\@makefntext##1{\parindent 1\zw\noindent
1054
          \hb@xt@ 2\zw{\hss\@makefnmark}##1}%
1055
1056 %</tate>
1057 %<*yoko>
        \long\def\@makefntext##1{\parindent 1em\noindent
1058
1059
          1060 %</yoko>
       \if@twocolumn
1061
         \ifnum \col@number=\@ne \@maketitle
1062
         \else \twocolumn[\@maketitle]%
1063
1064
1065
       \else
1066
         \newpage
```

```
1067
                    \global\@topnum\z@
                                         % Prevents figures from going at top of page.
                    \@maketitle
           1068
                   \fi
           1069
                    \thispagestyle{jpl@in}\@thanks
           1070
             ここでグループを閉じ、footnote カウンタをリセットし、\thanks, \maketitle,
            \@maketitle を無効にし、いくつかの内部マクロを空にして格納領域を節約します。
           1071
                 \endgroup
                 \setcounter{footnote}{0}%
           1072
                 \global\let\thanks\relax
           1073
                 \global\let\maketitle\relax
           1074
           1075
                 \global\let\@maketitle\relax
                 \global\let\p@thanks\relax
           1076
                 \global\let\@thanks\@empty
           1077
           1078
                 \global\let\@author\@empty
                 \global\let\@date\@empty
           1079
                 \global\let\@title\@empty
           1080
           1081
                 \global\let\title\relax
           1082
                 \global\let\author\relax
                 \global\let\date\relax
           1083
                 \global\let\and\relax
           1084
           1085
                }
\@maketitle 独立した表題ページを作らない場合の、表題の出力形式です。
                 \def\@maketitle{%
           1086
           1087
                 \newpage\null
                \vskip 2em%
           1088
           1089
                \begin{center}%
           1090 %<yoko> \let\footnote\thanks
           1091 %<tate> \let\footnote\p@thanks
                   {\LARGE \@title \par}%
           1092
           1093
                   \vskip 1.5em%
           1094
                   {\large
           1095
                     \lineskip .5em%
                    \begin{tabular}[t]{c}%
           1096
                       \@author
           1097
                    \end{tabular}\par}%
           1098
                   \vskip 1em%
           1099
                   {\large \@date}%
           1100
                 \end{center}%
           1101
           1102
                \par\vskip 1.5em}
           1103 \fi
```

9.2 概要

abstract 要約文のための環境です。book クラスでは使えません。report スタイルと、titlepage オプションを指定した article スタイルでは、独立したページに出力されます。

1104 %<*article|report>

```
1105 \if@titlepage
1106
     \newenvironment{abstract}{%
1107
          \titlepage
          \left\langle \right\rangle 
1108
          \@beginparpenalty\@lowpenalty
1109
1110
          \begin{center}%
1111
            {\bfseries\abstractname}%
            \@endparpenalty\@M
1112
1113
          \end{center}}%
          {\par\vfil\null\endtitlepage}
1114
1115 \else
     \newenvironment{abstract}{%
1116
1117
        \if@twocolumn
          \section*{\abstractname}%
1118
1119
        \else
          \small
1120
         \begin{center}%
1121
            1122
1123
          \end{center}%
1124
          \quotation
        \fi}{\if@twocolumn\else\endquotation\fi}
1125
1126 \fi
1127 %</article|report>
```

9.3 章見出し

9.3.1 マークコマンド

```
\chaptermark \...mark コマンドを初期化します。これらのコマンドはページスタイルの定義で \sectionmark 使われます (第8節参照)。これらのたいていのコマンドはltsect.dtxですでに定 \subsectionmark 義されています。
\subsubsectionmark 1128 %<!article>\newcommand*{\chaptermark}[1]{}
\paragraphmark 1129 %\newcommand*{\sectionmark}[1]{}
\paragraphmark 1130 %\newcommand*{\subsectionmark}[1]{}
\subparagraphmark 1131 %\newcommand*{\subsubsectionmark}[1]{}

1132 %\newcommand*{\paragraph}[1]{}

1133 %\newcommand*{\subparagraph}[1]{}
```

9.3.2 カウンタの定義

```
\c@secnumdepth secnumdepthには、番号を付ける、見出しコマンドのレベルを設定します。
1134 %<article>\setcounter{secnumdepth}{3}
1135 %<!article>\setcounter{secnumdepth}{2}
```

```
\c@chapter これらのカウンタは見出し番号に使われます。最初の引数は、二番目の引数が増加 \c@section するたびにリセットされます。二番目のカウンタはすでに定義されているものでな \c@subsection くてはいけません。
```

\c@subsubsection

\c@paragraph 42

```
1136 \newcounter{part}
                1137 %<*book|report>
                1138 \newcounter{chapter}
                1139 \newcounter{section}[chapter]
                1140 %</book|report>
                1141 %<article>\newcounter{section}
                1142 \newcounter{subsection} [section]
                1143 \newcounter{subsubsection} [subsection]
                1144 \newcounter{paragraph} [subsubsection]
                1145 \newcounter{subparagraph}[paragraph]
        \thepart \theCTR が実際に出力される形式の定義です。
                   \arabic{COUNTER}は、COUNTERの値を算用数字で出力します。
     \thechapter
                   \roman{COUNTER}は、COUNTERの値を小文字のローマ数字で出力します。
     \thesection
                   \Roman{COUNTER}は、COUNTERの値を大文字のローマ数字で出力します。
  \thesubsection
                   \alph{COUNTER}は、\alph{COUNTER}の値を 1 = a, 2 = b のようにして出力します。
\thesubsubsection
                   \mathbb{C} \Roman{COUNTER}は、COUNTER の値を 1 = A, 2 = B のようにして出力し
   \theparagraph
                 ます。
\thesubparagraph
                   \kansuji{COUNTER}は、COUNTERの値を漢数字で出力します。
                   は、何も影響しません。
                1146 %<*tate>
                1147 \renewcommand{\thepart}{\rensuji{\@Roman\c@part}}
                1148 %<article>\renewcommand{\thesection}{\rensuji{\@arabic\c@section}}
                1149 %<*report|book>
                1150 \renewcommand{\thechapter}{\rensuji{\@arabic\c@chapter}}
                1151 \renewcommand{\thesection}{\thechapter \rensuji{\@arabic\c@section}}
                1152 %</report|book>
                1153 \renewcommand{\thesubsection}{\thesection \rensuji{\Qarabic\cQsubsection}}
                1154 \renewcommand{\thesubsubsection}{%
                      \thesubsection · \rensuji{\@arabic\c@subsubsection}}
                1155
                1156 \renewcommand{\theparagraph}{%
                      \thesubsubsection · \rensuji{\@arabic\c@paragraph}}
                1158 \renewcommand{\thesubparagraph}{%
                      \theparagraph · \rensuji{\@arabic\c@subparagraph}}
                1159
                1160 %</tate>
                1161 %<*yoko>
                1162 \renewcommand{\thepart}{\@Roman\c@part}
                1163 %<article>\renewcommand{\thesection}{\Qarabic\cQsection}
                1164 %<*report|book>
                1165 \renewcommand{\thechapter}{\@arabic\c@chapter}
                1166 \mbox{ \label{thesection}{\mbox{\label{thesection}}{\mbox{\label{thesection}}}}
                1167 %</report|book>
                1168 \renewcommand{\thesubsection}{\thesection.\@arabic\c@subsection}
                1169 \renewcommand{\thesubsubsection}{%
                      \thesubsection.\@arabic\c@subsubsection}
```

1171 \renewcommand{\theparagraph}{%

\thesubsubsection.\@arabic\c@paragraph}

1173 \renewcommand{\thesubparagraph}{%

\theparagraph.\@arabic\c@subparagraph} 1174

1175 %</yoko>

\@chapapp \@chapapp の初期値は '\prechaptername' です。

\@chappos

\@chappos の初期値は '\postchaptername' です。

\appendix コマンドは \@chapapp を '\appendixname' に、\@chappos を空に再 定義します。

1176 %<*report|book>

1177 \newcommand{\@chapapp}{\prechaptername}

1178 \newcommand{\@chappos}{\postchaptername}

1179 %</report|book>

9.3.3 前付け、本文、後付け

\backmatter

\frontmatter 一冊の本は論理的に3つに分割されます。表題や目次や「はじめに」あるいは権利 \mainmatter などの前付け、そして本文、それから用語集や索引や奥付けなどの後付けです。

> 日本語 T_FX 開発コミュニティによる補足: LAT_FX の classes.dtx は、1996/05/26 (v1.3r) と 1998/05/05 (v1.3y) の計 2 回、\frontmatter と \mainmatter の定義を 修正しています。一回目はこれらの命令を openany オプションに応じて切り替え、 二回目はそれを元に戻しています。アスキーによる jclasses.dtx は、1997/01/15 に 一回目の修正に追随しましたが、二回目の修正には追随していません。コミュニティ 版では、一旦はアスキーによる仕様を維持しようと考えました (2016/11/22) が、以 下の理由により二回目の修正にも追随することにしました (2017/03/05)。

アスキー版での \frontmatter と \mainmatter の改ページ挙動は

openright なら \cleardoublepage、openany なら \clearpage を実行

というものでした。しかし、\frontmatter 及び \mainmatter はノンブルを1にリ セットしますから、改ページの結果が偶数ページ目になる場合1にノンブルが偶奇逆 転してしまいました。このままでは openany の場合に両面印刷がうまくいかないた め、新しいコミュニティ版では

必ず \pltx@cleartooddpage を実行

としました。これは両面印刷 (twoside) の場合は奇数ページに送り、片面印刷 (oneside) の場合は単に改ページとなります。(参考: latex/2754)

1180 %<*book>

¹縦 tbook のデフォルト (openright) が該当するほか、横 jbook と縦 tbook の openany のときに は成り行き次第で該当する可能性があります。

```
1181 \newcommand{\frontmatter}{%
```

- 1182 \pltx@cleartooddpage
- 1183 \Cmainmatterfalse\pagenumbering{roman}}
- 1184 \newcommand{\mainmatter}{\%
- 1185 \pltx@cleartooddpage
- 1186 \Omainmattertrue\pagenumbering{arabic}}
- 1187 \newcommand{\backmatter}{%
- 1188 \if@openleft \cleardoublepage \else
- 1189 \if@openright \cleardoublepage \else \clearpage \fi \fi
- 1190 \@mainmatterfalse}
- 1191 %</book>

9.3.4 ボックスの組み立て

クラスファイル定義の、この部分では、\@startsectionと\secdefの二つの内部マクロを使います。これらの構文を次に示します。

\@startsection マクロは6つの引数と1つのオプション引数 '*' を取ります。 \@startsection $\langle name \rangle \langle level \rangle \langle indent \rangle \langle beforeskip \rangle \langle afterskip \rangle \langle style \rangle$ optional *

 $[\langle altheading \rangle] \langle heading \rangle$

それぞれの引数の意味は、次のとおりです。

⟨name⟩ レベルコマンドの名前です (例:section)。

 $\langle level \rangle$ 見出しの深さを示す数値です (chapter=1, section=2, ...)。" $\langle level \rangle <=$ カウンタ secnumdepth の値"のとき、見出し番号が出力されます。

〈indent〉見出しに対する、左マージンからのインデント量です。

- 〈**beforeskip**〉見出しの上に置かれる空白の絶対値です。負の場合は、見出しに続く テキストのインデントを抑制します。
- 〈afterskip〉正のとき、見出しの後の垂直方向のスペースとなります。負の場合は、 見出しの後の水平方向のスペースとなります。

〈style〉見出しのスタイルを設定するコマンドです。

(*) 見出し番号を付けないとき、対応するカウンタは増加します。

〈**heading**〉新しい見出しの文字列です。

見出しコマンドは通常、\@startsection と 6 つの引数で定義されています。 \secdef マクロは、見出しコマンドを \@startsection を用いないで定義すると きに使います。このマクロは、2 つの引数を持ちます。

 $\scalebox{secdef}\langle unstarcmds\rangle\langle starcmds\rangle$

〈unstarcmds〉 見出しコマンドの普通の形式で使われます。

 $\langle starcmds \rangle *$ 形式の見出しコマンドで使われます。

\secdef は次のようにして使うことができます。

```
\def\chapter {... \secdef \CMDA \CMDB }
\def\CMDA [#1]#2{....} % \chapter[...] {...} の定義
\def\CMDB #1{....} % \chapter*{...} の定義
```

9.3.5 part レベル

\part このコマンドは、新しいパート(部)をはじめます。

article クラスの場合は、簡単です。

新しい段落を開始し、小さな空白を入れ、段落後のインデントを行い、\secdefで作成します。(アスキーによる元のドキュメントには「段落後のインデントをしないようにし」と書かれていましたが、実際のコードでは段落後のインデントを行っていました。そこで日本語 T_EX 開発コミュニティは、ドキュメントをコードに合わせて「段落後のインデントを行い」へと修正しました。)

```
1192 %<*article>
```

- 1193 \newcommand{\part}{%
- 1194 \if@noskipsec \leavevmode \fi
- 1195 \par\addvspace{4ex}%
- 1196 \@afterindenttrue
- 1197 \secdef\@part\@spart}
- 1198 %</article>

report と book スタイルの場合は、少し複雑です。

まず、右ページからはじまるように改ページをします。そして、部扉のページスタイルを empty にします。2段組の場合でも、1段組で作成しますが、後ほど2段組に戻すために、\@restonecol スイッチを使います。

```
1199 %<*report|book>
```

- 1200 \newcommand{\part}{%
- 1201 \if@openleft \cleardoublepage \else
- 1202 \if@openright \cleardoublepage \else \clearpage \fi \fi
- 1203 \thispagestyle{empty}%
- $1204 \verb| \if@twocolumn\\onecolumn\\@tempswatrue\\else\\@tempswafalse\\fi$
- 1205 \null\vfil
- 1206 \secdef\@part\@spart}
- 1207 %</report|book>

\@part このマクロが実際に部レベルの見出しを作成します。このマクロも文書クラスによって定義が異なります。

article クラスの場合は、secnumdepth が -1 よりも大きいとき、見出し番号を付けます。このカウンタが -1 以下の場合には付けません。

```
1208 %<*article>
       1209 \def\@part[#1]#2{%
       1210
             \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
       1211
               \refstepcounter{part}%
               \verb|\addcontentsline{toc}{part}{%|}
       1212
                  \prepartname\thepart\postpartname\hspace{1\zw}#1}%
       1213
       1214
               \addcontentsline{toc}{part}{#1}%
       1215
       1216
             \fi
             \markboth{}{}%
       1217
             {\parindent\z@\raggedright
       1218
              \interlinepenalty\@M\normalfont
       1219
       1220
              \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
       1221
                \Large\bfseries\prepartname\thepart\postpartname
       1222
                \par\nobreak
              \fi
       1223
       1224
              \huge\bfseries#2\par}%
             \nobreak\vskip3ex\@afterheading}
       1225
       1226 %</article>
           report と book クラスの場合は、secnumdepth が -2 よりも大きいときに、見出し
         番号を付けます。-2以下では付けません。
       1227 %<*report|book>
       1228 \def\@part[#1]#2{%
             \ifnum \c@secnumdepth >-2\relax
       1229
               \refstepcounter{part}%
       1230
       1231
               \addcontentsline{toc}{part}{%
                  \prepartname\thepart\postpartname\hspace{1em}#1}%
       1232
       1233
             \else
               \addcontentsline{toc}{part}{#1}%
       1234
             \fi
       1235
             \markboth{}{}%
       1236
       1237
             {\centering
       1238
              \interlinepenalty\@M\normalfont
              \ifnum \c@secnumdepth >-2\relax
       1239
                \huge\bfseries\prepartname\thepart\postpartname
       1240
                \par\vskip20\p@
       1241
              \fi
       1242
              \Huge\bfseries#2\par}%
       1243
       1244
              \@endpart}
       1245 %</report|book>
\@spart このマクロは、番号を付けないときの体裁です。
       1246 %<*article>
       1247 \def\@spart#1{{%
       1248 \parindent\z@\raggedright
```

```
\interlinepenalty\@M\normalfont
1249
1250
      \huge\bfseries#1\par}%
      \nobreak\vskip3ex\@afterheading}
1251
1252 %</article>
1253 %<*report|book>
1254 \def\@spart#1{{%
1255
      \centering
      \interlinepenalty\@M\normalfont
1256
      \Huge\bfseries#1\par}%
1257
      \@endpart}
1258
1259 %</report|book>
```

\@endpart \@part と \@spart の最後で実行されるマクロです。両面印刷モードのときは、白 ページを追加します。二段組モードのときには、これ以降のページを二段組に戻しま す。2016年12月から、openany のときに白ページを追加するのをやめました。この バグは LATFX では classes.dtx v1.4b (2000/05/19) で修正されていました。(参考: latex/3155, texjporg/jsclasses#48)

```
1260 %<*report|book>
1261 \def\@endpart{\vfil\newpage
1262
      \if@twoside
1263
       \if@openleft %% \if@openleft added (2017/02/15)
        \null\thispagestyle{empty}\newpage
1264
1265
       \else\if@openright %% \if@openright added (2016/12/18)
1266
        \null\thispagestyle{empty}\newpage
       \fi\fi \% added (2016/12/18, 2017/02/15)
1267
1268
      \fi
 二段組文書のとき、スイッチを二段組モードに戻す必要があります。
```

```
\if@tempswa\twocolumn\fi}
1270 %</report|book>
```

9.3.6 chapter レベル

章レベルは、必ずページの先頭から開始します。openright オプションが指定され ている場合は、右ページからはじまるように \cleardoublepage を呼び出します。 そうでなければ、\clearpage を呼び出します。なお、縦組の場合でも右ページから はじまるように、フォーマットファイルで \clerdoublepage が定義されています。

> 日本語 T_{PX} 開発コミュニティによる補足: コミュニティ版の実装では、openrightと openleft の場合に \cleardoublepage をクラスファイルの中で再々定義してい ます。7を参照してください。

> 章見出しが出力されるページのスタイルは、jpl@in になります。jpl@in は、 headnomble か footnomble のいずれかです。詳細は、第8節を参照してください。 また、\@topnum をゼロにして、章見出しの上にトップフロートが置かれないよ うにしています。

```
1271 %<*report|book>
1272 \newcommand{\chapter}{%
1273 \if@openleft \cleardoublepage \else
1274 \if@openright \cleardoublepage \else \clearpage \fi \fi
1275 \thispagestyle{jpl@in}%
1276 \global\@topnum\z@
1277 \@afterindenttrue
1278 \secdef\@chapter\@schapter}
```

\@chapter このマクロは、章見出しに番号を付けるときに呼び出されます。 $secnumdepth \, \mathring{n} - 1$ よりも大きく、\@mainmatter が真(book クラスの場合)のときに、番号を出力します。

日本語 T_{EX} 開発コミュニティによる補足:本家 LATEX の classes では、二段組のときチャプタータイトルは一段組に戻されますが、アスキーによる jclasses では二段組のままにされています。したがって、チャプタータイトルより高い位置に右カラムの始点が来るという挙動になっていますが、コミュニティ版でもアスキー版の挙動を維持しています。

```
1279 \def\@chapter[#1]#2{%
1280
     \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
               \if@mainmatter
1281 %<book>
        \refstepcounter{chapter}%
1282
1283
        \typeout{\@chapapp\space\thechapter\space\@chappos}%
1284
        \addcontentsline{toc}{chapter}%
1285
          {\protect\numberline{\@chapapp\thechapter\@chappos}#1}%
1286 %<book>
               \else\addcontentsline{toc}{chapter}{#1}\fi
1287
      \else
        \addcontentsline{toc}{chapter}{#1}%
1288
      \fi
1289
      \chaptermark{#1}%
1290
      \addtocontents{lof}{\protect\addvspace{10\p0}}%
1291
1292
      \addtocontents{lot}{\protect\addvspace{10\p0}}%
      \@makechapterhead{#2}\@afterheading}
1293
```

\@makechapterhead このマクロが実際に章見出しを組み立てます。

```
1294 \def\@makechapterhead#1{\hbox{}%
     \vskip2\Cvs
1295
     {\parindent\z@
1296
1297
      \raggedright
      \normalfont\huge\bfseries
1298
1299
      \leavevmode
      \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
1300
        \setlength\@tempdima{\linewidth}%
1301
1302 %<book>
             \if@mainmatter
1303
        \d = \frac{-\wd\z0}{\%}
1304
1305
        \unhbox\z@\nobreak
1306 %<book>
             \fi
```

```
1307
                      \vtop{\hsize\@tempdima#1}%
               1308
                     \else
                      #1\relax
               1309
                    \fi}\nobreak\vskip3\Cvs}
               1310
      \Oschapter このマクロは、章見出しに番号を付けないときに呼び出されます。
                  日本語 TeX 開発コミュニティによる補足:やはり二段組でチャプタータイトルよ
                り高い位置に右カラムの始点が来るという挙動を維持してあります。
               1311 \def\@schapter#1{%
               1312 \@makeschapterhead{#1}\@afterheading
               1313 }
\@makeschapterhead 番号を付けない場合の形式です。
               1314 \def\@makeschapterhead#1{\hbox{}}\%
               1315
                   \vskip2\Cvs
               1316
                   {\parindent\z@
               1317
                    \raggedright
               1318
                    \normalfont\huge\bfseries
```

9.3.7 下位レベルの見出し

\leavevmode

1322 %</report|book>

1319

1320

1321

\section 見出しの前後に空白を付け、\Large\bfseries で出力をします。

```
1323 \newcommand{\section}{\Qstartsection{section}{1}{\z0}%
```

1324 {1.5\Cvs \@plus.5\Cvs \@minus.2\Cvs}%

\setlength\@tempdima{\linewidth}%

\vtop{\hsize\@tempdima#1}}\vskip3\Cvs}

- 1325 {.5\Cvs \@plus.3\Cvs}%
- 1326 {\normalfont\Large\bfseries}}

\subsection 見出しの前後に空白を付け、\large\bfseries で出力をします。

- 1327 \newcommand{\subsection}{\Qstartsection{subsection}{2}{\zQ}%
- 1328 {1.5\Cvs \@plus.5\Cvs \@minus.2\Cvs}%
- 1329 {.5\Cvs \@plus.3\Cvs}%
- 1330 {\normalfont\large\bfseries}}

\subsubsection 見出しの前後に空白を付け、\normalsize\bfseries で出力をします。

- 1331 \newcommand{\subsubsection}{\Qstartsection{subsubsection}{3}{\z0}%
- 1332 {1.5\Cvs \@plus.5\Cvs \@minus.2\Cvs}\%
- 1333 {.5\Cvs \@plus.3\Cvs}%
- 1334 {\normalfont\normalsize\bfseries}}

\paragraph 見出しの前に空白を付け、\normalsize\bfseries で出力をします。見出しの後ろ で改行されません。

1335 \newcommand{\paragraph}{\@startsection{paragraph}{4}{\z@}%

```
1336 {3.25ex \Oplus 1ex \Ominus .2ex}%
```

1337 {-1em}%

1338 {\normalfont\normalsize\bfseries}}

\subparagraph 見出しの前に空白を付け、\normalsize\bfseriesで出力をします。見出しの後ろ で改行されません。

```
1339 \newcommand{\subparagraph}{\@startsection{subparagraph}{5}{\z@}%
```

1340 {3.25ex \@plus 1ex \@minus .2ex}%

1341 {-1em}%

1342 {\normalfont\normalsize\bfseries}}

9.3.8 付録

\appendix article クラスの場合、\appendix コマンドは次のことを行ないます。

- section と subsection カウンタをリセットする。
- \thesection を英小文字で出力するように再定義する。

1343 %<*article>

```
1344 \newcommand{\appendix}{\par
```

1345 \setcounter{section}{0}%

1346 \setcounter{subsection}{0}%

1347 % \tate \renewcommand{\thesection}{\rensuji{\QAlph\cQsection}}}

1348 %<yoko> \renewcommand{\thesection}{\@Alph\c@section}}

1349 %</article>

report と book クラスの場合、\appendix コマンドは次のことを行ないます。

- chapter と section カウンタをリセットする。
- \@chapappを \appendixname に設定する。
- \@chappos を空にする。
- \thechapter を英小文字で出力するように再定義する。

1350 %<*report|book>

```
1351 \newcommand{\appendix}{\par
```

- 1352 \setcounter{chapter}{0}%
- 1353 \setcounter{section}{0}%
- 1354 \renewcommand{\@chapapp}{\appendixname}%
- 1355 \renewcommand{\@chappos}\space%
- 1356 % \renewcommand{\thechapter}{\rensuji{\@Alph\c@chapter}}}
- 1357 %<yoko> \renewcommand{\thechapter}{\@Alph\c@chapter}}
- 1358 %</report|book>

9.4 リスト環境

ここではリスト環境について説明をしています。

リスト環境のデフォルトは次のように設定されます。

まず、\rigtmargin, \listparindent, \itemindent をゼロにします。そして、K番目のレベルのリストは \@listKで示されるマクロが呼び出されます。ここで'K'は小文字のローマ数字で示されます。たとえば、3番目のレベルのリストとして \@listiii が呼び出されます。\@listKは \leftmarginを \leftmarginKに設定します。

```
\leftmargin 二段組モードのマージンは少しだけ小さく設定してあります。
  \leftmargini 1359 \if@twocolumn
\label{eq:leftmargini} \begin{array}{c} 1360 \quad \texttt{\setlength} \texttt{\leftmargini} \  \  \, \\ 1361 \ \texttt{\lese} \end{array}
\leftmarginiv 1363 \fi
 \leftmarginv 次の3つの値は、\labelsepとデフォルトラベル('(m)', 'vii.', 'M.')の幅の合計よ
\leftmarginvi りも大きくしてあります。
             1364 \setlength\leftmarginii {2.2em}
              1365 \setlength\leftmarginiii {1.87em}
              1366 \setlength\leftmarginiv {1.7em}
              1367 \if@twocolumn
              1368 \setlength\leftmarginv {.5em}
             1369 \setlength\leftmarginvi{.5em}
             1370 \else
              1371 \setlength\leftmarginv {1em}
              1372 \setlength\leftmarginvi{1em}
              1373 \fi
```

\labelsep \labelsep はラベルとテキストの項目の間の距離です。\labelwidth はラベルの幅 \labelwidth です。

```
1374 \setlength \labelsep { .5em}  
1375 \setlength \labelwidth{\leftmargini}  
1376 \addtolength\labelwidth{-\labelsep}
```

\@beginparpenalty これらのペナルティは、リストや段落環境の前後に挿入されます。

\Condparpenalty このペナルティは、リスト項目の間に挿入されます。

```
1377 \@beginparpenalty -\@lowpenalty
1378 \@endparpenalty -\@lowpenalty
1379 \@itempenalty -\@lowpenalty
1380 %</article|report|book>
```

\partopsep リスト環境の前に空行がある場合、\partopsep と \topsep に \partopsep が加えられた値の縦方向の空白が取られます。

```
\@listi \@listi は、\leftmargin, \parsep, \topsep, \itemsep などのトップレベルの定
 \@listI 義をします。この定義は、フォントサイズコマンドによって変更されます(たとえ
         ば、\small の中では "小さい" リストパラメータになります)。
           このため、\normalsize がすべてのパラメータを戻せるように、\@listI は
         \@listi のコピーを保存するように定義されています。
       1384 %<*10pt | 11pt | 12pt>
       1385 \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
       1386 %<*10pt>
            \parsep 4\p@ \@plus2\p@ \@minus\p@
            \topsep 8\p@ \@plus2\p@ \@minus4\p@
           \itemsep4\p@ \@plus2\p@ \@minus\p@}
       1390 %</10pt>
       1391 %<*11pt>
           \parsep 4.5\p0 \@plus2\p0 \@minus\p0
            \topsep 9\p@ \@plus3\p@ \@minus5\p@
       1394 \rightarrow \frac{9}{2p} \end{0.5}
       1395 %</11pt>
       1396 %<*12pt>
           \parsep 5\p0 \@plus2.5\p0 \@minus\p0
           \topsep 10\p@ \@plus4\p@ \@minus6\p@
       1399 \itemsep5\p@ \@plus2.5\p@ \@minus\p@}
       1400 %</12pt>
       1401 \let\@listI\@listi
         ここで、パラメータを初期化しますが、厳密には必要ありません。
       1402 \@listi
\@listii 下位レベルのリスト環境のパラメータの設定です。これらは保存用のバージョンを
\@listiii 持たないことと、フォントサイズコマンドによって変更されないことに注意をして
\@listiv ください。言い換えれば、このクラスは、本文サイズが \normalsize で現れるリス
 \@listv トの入れ子についてだけ考えています。
\@listvi 1403 \def\@listii{\leftmargin\leftmarginii
             \labelwidth\leftmarginii \advance\labelwidth-\labelsep
       1404
       1405 %<*10pt>
             \topsep 4\p@ \@plus2\p@ \@minus\p@
       1406
             \parsep 2\p0 \@plus\p0 \@minus\p0
       1408 %</10pt>
       1409 %<*11pt>
             \topsep 4.5\p@ \@plus2\p@ \@minus\p@
       1410
       1411
             \parsep 2\p@
                         \@plus\p@ \@minus\p@
       1412 %</11pt>
       1413 %<*12pt>
             \topsep 5\p@ \@plus2.5\p@ \@minus\p@
```

1381 %<10pt>\setlength\partopsep{2\p0 \@plus 1\p0 \@minus 1\p0} 1382 %<11pt>\setlength\partopsep{3\p0 \@plus 1\p0 \@minus 1\p0} 1383 %<12pt>\setlength\partopsep{3\p0 \@plus 2\p0 \@minus 2\p0}

```
\parsep 2.5\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
1415
1416 %</12pt>
1417
       \itemsep\parsep}
1418 \def\@listiii{\leftmargin\leftmarginiii
       \labelwidth\leftmarginiii \advance\labelwidth-\labelsep
1420 %<10pt>
              \topsep 2\p@ \@plus\p@\@minus\p@
1421 %<11pt>
              \topsep 2\p0 \@plus\p0\@minus\p0
              \topsep 2.5\p@\@plus\p@\@minus\p@
1422 %<12pt>
1423
       \parsep\z@
       \partopsep \p@ \@plus\z@ \@minus\p@
1424
       \itemsep\topsep}
1425
1426 \def\@listiv {\leftmargin\leftmarginiv
1427
                  \labelwidth\leftmarginiv
                  \advance\labelwidth-\labelsep}
1428
1429 \def\@listv {\leftmargin\leftmarginv
                  \labelwidth\leftmarginv
1430
                  \advance\labelwidth-\labelsep}
1431
1432 \def\@listvi {\leftmargin\leftmarginvi
                  \labelwidth\leftmarginvi
1434
                   \advance\labelwidth-\labelsep}
1435 %</10pt | 11pt | 12pt>
```

9.4.1 enumerate 環境

 $\verb|\labelenumiv| 1450 \verb|\labelenumi| {\labelenumi} = (\labelenumi) = (\labele$

\labelenumiii 1449 %<*tate>

enumerate 環境は、カウンタ enumi, enumii, enumii, enumiv を使います。enumN は N 番目のレベルの番号を制御します。

```
\theenumi 出力する番号の書式を設定します。これらは、すでにltlists.dtxで定義されてい \theenumii ます。
```

```
1451 \newcommand{\labelenumii}{\theenumii}
            1452 \newcommand{\labelenumiii}{\theenumiii}
            1453 \newcommand{\labelenumiv}{\theenumiv}
            1454 %</tate>
            1455 %<*yoko>
            1456 \newcommand{\labelenumi}{\theenumi.}
            1457 \newcommand{\labelenumii}{(\theenumii)}
            1458 \newcommand{\labelenumiii}{\theenumiii.}
            1459 \mbox{ labelenumiv}{\mbox{theenumiv.}}
            1460 %</yoko>
   \p@enumii \ref コマンドによって、enumerate 環境の N 番目のリスト項目が参照されるとき
  \p@enumiii の書式です。
   \p@enumiv 1461 \renewcommand{\p@enumii}{\theenumi}
            1462 \renewcommand{\p@enumiii}{\theenumi(\theenumii)}
            1463 \renewcommand{\p@enumiv}{\p@enumiii\theenumiii}
              トップレベルで使われたときに、最初と最後に半行分のスペースを開けるように、
   enumerate
              変更します。この環境は、ltlists.dtxで定義されています。
            1464 \renewenvironment{enumerate}
                  {\ifnum \@enumdepth >\thr@@\@toodeep\else
            1465
            1466
                   \advance\@enumdepth\@ne
                   \edef\@enumctr{enum\romannumeral\the\@enumdepth}%
            1467
                   \expandafter \list \csname label\@enumctr\endcsname{%
            1468
            1469
                      \ifnum\ltjgetparameter{direction}=3
                         \ifnum \@listdepth=\@ne \topsep.5\normalbaselineskip
            1470
                           \else\topsep\z@\fi
            1471
                         \parskip\z@ \itemsep\z@ \parsep\z@
            1472
            1473
                         \labelwidth1\zw \labelsep.3\zw
                         \ifnum \@enumdepth=\@ne \leftmargin1\zw\relax
            1474
            1475
                           \else\leftmargin\leftskip\fi
                         \advance\leftmargin 1\zw
            1476
            1477
                         \usecounter{\@enumctr}%
            1478
                         \def\makelabel##1{\hss\llap{##1}}}%
            1479
            1480
                   \fi}{\endlist}
              9.4.2 itemize 環境
 \labelitemi itemize 環境のそれぞれの項目のラベルは、\labelenumi ... \labelenumiv で生成
\labelitemii されます。
\verb|\labelitemiii 1481 \newcommand{\labelitemi} {\textbullet}|
\labelitemiv 1482 \newcommand{\labelitemii}{%
            1483
                  \ifnum\ltjgetparameter{direction}=3
            1484
                     {\textcircled{~}}
                  \else
            1485
                     {\normalfont\bfseries\textendash}
            1486
```

```
1487
            \fi
       1488 }
       1489 \newcommand{\labelitemiii}{\textasteriskcentered}
       1490 \mbox{\labelitemiv}{\textperiodcentered}
itemize トップレベルで使われたときに、最初と最後に半行分のスペースを開けるように、
        変更します。この環境は、ltlists.dtxで定義されています。
       1491 \renewenvironment{itemize}
       1492
            {\ifnum \@itemdepth >\thr@@\@toodeep\else
       1493
             \advance\@itemdepth\@ne
             \edef\@itemitem{labelitem\romannumeral\the\@itemdepth}%
       1494
       1495
             \expandafter \list \csname \@itemitem\endcsname{%
       1496
                \ifnum\ltjgetparameter{direction}=3
                   \ifnum \@listdepth=\@ne \topsep.5\normalbaselineskip
       1497
       1498
                     \else\topsep\z@\fi
                   \parskip\z@ \itemsep\z@ \parsep\z@
       1499
                   \labelwidth1\zw \labelsep.3\zw
       1500
                   \ifnum \@itemdepth =\@ne \leftmargin1\zw\relax
       1501
       1502
                     \else\leftmargin\leftskip\fi
                   \advance\leftmargin 1\zw
       1503
                \fi
       1504
                   \def\makelabel##1{\hss\llap{##1}}}%
       1505
             \fi}{\endlist}
       1506
```

9.4.3 description 環境

description description 環境を定義します。縦組時には、インデントが3字分だけ深くなります。

```
1507 \newenvironment{description}
      {\list{}{\labelwidth\z@ \itemindent-\leftmargin
1508
       \ifnum\ltjgetparameter{direction}=3
1509
         \leftmargin\leftskip \advance\leftmargin3\Cwd
1510
1511
         \rightmargin\rightskip
1512
         \labelsep=1\zw \itemsep\z@
         \listparindent\z@ \topskip\z@ \parskip\z@ \partopsep\z@
1513
1514
       \fi
               \let\makelabel\descriptionlabel}}{\endlist}
1515
```

\descriptionlabel ラベルの形式を変更する必要がある場合は、\descriptionlabelを再定義してください。

```
1516 \newcommand{\descriptionlabel}[1]{%
1517 \hspace\labelsep\normalfont\bfseries #1}
```

9.4.4 verse 環境

verse verse 環境は、リスト環境のパラメータを使って定義されています。改行をするには \\ を用います。 \\ は \@centercr に \let されています。

```
1518 \newenvironment{verse}

1519 {\let\\\@centercr

1520 \list{}{\itemsep\z@\itemindent -1.5em%

1521 \listparindent\itemindent

1522 \rightmargin\leftmargin \advance\leftmargin 1.5em}%

1523 \item\relax}{\endlist}
```

9.4.5 quotation 環境

quotation quotation 環境もまた、list 環境のパラメータを使用して定義されています。この環境の各行は、\textwidth よりも小さく設定されています。この環境における、段落の最初の行はインデントされます。

```
1524 \newenvironment{quotation}
1525 {\list{}{\listparindent 1.5em%}
1526 \itemindent\listparindent
1527 \rightmargin\leftmargin
1528 \parsep\z@ \@plus\p@}%
1529 \item\relax}{\endlist}
```

9.4.6 quote 環境

quote quote 環境は、段落がインデントされないことを除き、quotation 環境と同じです。

```
1530 \newenvironment{quote}
1531 {\list{}{\rightmargin\leftmargin}%
1532 \item\relax}{\endlist}
```

9.5 フロート

ltfloat.dtx では、フロートオブジェクトを操作するためのツールしか定義していません。タイプが TYPE のフロートオブジェクトを扱うマクロを定義するには、次の変数が必要です。

\fps@TYPE タイプ TYPE のフロートを置くデフォルトの位置です。

\ftype@TYPE タイプ TYPE のフロートの番号です。各 TYPE には、一意な、2 の倍数の TYPE 番号を割り当てます。たとえば、図が番号 1 ならば、表は 2 です。次のタイプは 4 となります。

\extCTYPE タイプ TYPE のフロートの目次を出力するファイルの拡張子です。たとえば、\extCfigure は 'lot' です。

\fnum@TYPE キャプション用の図番号を生成するマクロです。たとえば、\fnum@figure は '図 \thefigure' を作ります。

9.5.1 figure 環境

ここでは、figure 環境を実装しています。

```
\c@figure 図番号です。
  \thefigure 1533 %<article>\newcounter{figure}
            1534 %<report|book>\newcounter{figure}[chapter]
            1535 %<*tate>
            1537 %<*report|book>
            1538 \renewcommand{\thefigure}{%
            1539 \ifnum\c@chapter>\z@\thechapter{} · \fi\rensuji{\@arabic\c@figure}}
            1540 %</report|book>
            1541 %</tate>
            1542 %<*yoko>
            1543 %<article>\renewcommand{\thefigure}{\@arabic\c@figure}
            1544 %<*report|book>
            1545 \renewcommand{\thefigure}{%
            1546 \ifnum\c@chapter>\z@\thechapter.\fi\@arabic\c@figure}
            1547 %</report|book>
            1548 %</yoko>
 \fps@figure フロートオブジェクトタイプ "figure" のためのパラメータです。
\ftype@figure 1549 \def\fps@figure{tbp}
 \ext@figure \ \frac{1550}{1550} \ \def\frac{1}{1551} \ \def\ext@figure \{15} \ \def\ext@figure \{16} \}
 1553 %<yoko>\def\fnum@figure{\figurename~\thefigure}
      figure *形式は2段抜きのフロートとなります。
     figure* 1554 \newenvironment{figure}
            1555
                              {\@float{figure}}
            1556
                              {\end@float}
            1557 \newenvironment{figure*}
                              {\@dblfloat{figure}}
            1558
                              {\end@dblfloat}
            1559
             9.5.2 table 環境
              ここでは、table 環境を実装しています。
    \c@table 表番号です。
   \thetable 1560 %<article>\newcounter{table}
            1561 % report|book>\newcounter{table}[chapter]
            1562 %<*tate>
            1563 %<article>\renewcommand{\thetable}{\rensuji{\Qarabic\cQtable}}
            1564 %<*report|book>
```

```
1565 \renewcommand{\thetable}{%
             1566 \qquad \verb|\ifnum\c@chapter>\z@\thechapter{} \cdot fi\rensuji{\@arabic\c@table}}|
             1567 %</report|book>
             1568 %</tate>
             1569 %<*yoko>
             1570 %<article>\renewcommand{\thetable}{\@arabic\c@table}
             1571 %<*report|book>
             1572 \renewcommand{\thetable}{%
             1573 \ifnum\c@chapter>\z@\thechapter.\fi\@arabic\c@table}
             1574 %</report|book>
             1575 %</yoko>
 \fps@table フロートオブジェクトタイプ "table" のためのパラメータです。
\ftvpe@table 1576 \def\fps@table{tbp}
 \ext@table \\ 1577 \def\ftype@table{2} \\ 1578 \def\ext@table{lot}
\label{table_1579 % tate} $$ \inf_{1579 \ \%} $$ \operatorname{tate}\left( \frac{\hat{table}}{\hat{table}} \right) $$
             1580 %<yoko>\def\fnum@table{\tablename~\thetable}
       table *形式は2段抜きのフロートとなります。
      table* 1581 \newenvironment{table}
             1582
                                   {\@float{table}}
                                   {\end@float}
             1583
             1584 \newenvironment{table*}
                                   {\@dblfloat{table}}
             1585
             1586
                                   {\end@dblfloat}
```

9.6 キャプション

\@makecaption \caption コマンドは、キャプションを組み立てるために \@mkcaption を呼出ます。このコマンドは二つの引数を取ります。一つは、 $\langle number \rangle$ で、フロートオブジェクトの番号です。もう一つは、 $\langle text \rangle$ でキャプション文字列です。 $\langle number \rangle$ には通常、'図 3.2'のような文字列が入っています。このマクロは、\parbox の中で呼び出されます。書体は \normalsize です。

\abovecaptionskip これらの長さはキャプションの前後に挿入されるスペースです。

 $\verb|\belowcaptionskip| 1587 \verb|\newlength| above captionskip|$

- $1588 \verb|\newlength| belowcaptionskip|$
- 1589 \setlength\abovecaptionskip{10\p0}
- 1590 \setlength\belowcaptionskip{0\p@}

キャプション内で複数の段落を作成することができるように、このマクロは \long で定義をします。

- 1591 \long\def\@makecaption#1#2{%
- 1592 \vskip\abovecaptionskip

```
1594
        \else\sbox\@tempboxa{#1: #2}%
1595
      \fi
      \ifdim \wd\@tempboxa >\hsize
1596
        \ifnum\ltjgetparameter{direction}=3 #1\hskip1\zw#2\relax\par
1597
          \else #1: #2\relax\par\fi
1598
1599
1600
        \global \@minipagefalse
        \hb@xt@\hsize{\hfil\box\@tempboxa\hfil}%
1601
1602
1603
     \vskip\belowcaptionskip}
```

9.7 コマンドパラメータの設定

9.7.1 array と tabular 環境

\arraycolsep array 環境のカラムは 2\arraycolsep で分離されます。
1604 \setlength\arraycolsep{5\p0}

\tabcolsep tabular 環境のカラムは 2\tabcolsep で分離されます。
1605 \setlength\tabcolsep{6\p0}

\arrayrulewidth array と tabular 環境内の罫線の幅です。
1606 \setlength\arrayrulewidth{.4\p@}

\doublerulesep array と tabular 環境内の罫線間を調整する空白です。
1607 \setlength\doublerulesep{2\p0}

9.7.2 tabbing 環境

\tabbingsep \'コマンドで置かれるスペースを制御します。
1608 \setlength\tabbingsep{\labelsep}

9.7.3 minipage 環境

\@mpfootins minipageにも脚注を付けることができます。\skip\@mpfootinsは、通常の\skip\footinsと同じような動作をします。

1609 \skip\@mpfootins = \skip\footins

9.7.4 framebox 環境

\fboxsep \fboxsep は、\fbox と \framebox での、テキストとボックスの間に入る空白です。 \fboxrule \fboxrule は \fbox と \framebox で作成される罫線の幅です。

1610 \setlength\fboxsep{3\p0}
1611 \setlength\fboxrule{.4\p0}

9.7.5 equation と eqnarray 環境

\theequation equation カウンタは、新しい章の開始でリセットされます。また、equation 番号には、章番号が付きます。

このコードは \chapter 定義の後、より正確には chapter カウンタの定義の後、でなくてはいけません。

10 フォントコマンド

まず、数式内に日本語を直接、記述するために数式記号用文字に"JY3/mc/m/n"を登録します。数式バージョンが bold の場合は、"JY3/gt/m/n"を用います。これらは、\mathmc, \mathgt として登録されます。また、日本語数式ファミリとして\symminchoがこの段階で設定されます。mathrmmc オプションが指定されていた場合には、これに引き続き \mathrm と \mathbf を和欧文両対応にするための作業がなされます。この際、他のマクロとの衝突を避けるため \AtBeginDocument を用いて展開順序を遅らせる必要があります。

変更

IFT_EX 2.09 compatibility mode では和文数式フォント fam が 2 重定義されていたので、その部分を変更しました。

```
1618 \if@compatibility\else
     \DeclareSymbolFontAlphabet{\mathmc}{mincho}
1620
     \SetSymbolFont{mincho}{bold}{JY3}{gt}{m}{n}
     \jfam\symmincho
1623
     \DeclareMathAlphabet{\mathgt}{JY3}{gt}{m}{n}
1624 \fi
1625 \if@mathrmmc
1626 \AtBeginDocument{%
     \reDeclareMathAlphabet{\mathrm}{\mathrm}{\mathrm}{\mathrm}
1628
     \reDeclareMathAlphabet{\mathbf}{\mathbf}{\mathbf}{\mathbf}}
1629 }%
1630 \fi
```

ここでは IFT_EX 2.09 で一般的に使われていたコマンドを定義しています。これらのコマンドはテキストモードと数式モードの**どちらでも**動作します。これらは互換性のために提供をしますが、できるだけ \text...と \math...を使うようにしてください。

\mc これらのコマンドはフォントファミリを変更します。互換モードの同名コマンドと

\gt 異なり、すべてのコマンドがデフォルトフォントにリセットしてから、対応する属

\rm 性を変更することに注意してください。

- \sf 1631 \DeclareOldFontCommand{\mc}{\normalfont\mcfamily}{\mathmc}
- \tt \frac{1632 \DeclareOldFontCommand{\gt}{\normalfont\gtfamily}{\mathgt}
 - 1633 \DeclareOldFontCommand{\rm}{\normalfont\rmfamily}{\mathrm}
 - $1634 \end{sf}{\normalfont\sffamily}{\mathsf}$
 - $1635 \verb|\DeclareOldFontCommand{\tt}{\normalfont\ttfamily}{\mbox|\mbox|}$
- \bf このコマンドはボールド書体にします。ノーマル書体に変更するには、\mdseries と指定をします。
 - $1636 \end{\colored} \label{locality} In ormal font \end{\colored} \label{locality} \label{locality} \label{locality} \label{locality} \label{locality} \label{locality} In ormal font \end{\colored} \label{locality} \label{lo$
- \it これらのコマンドはフォントシェイプを切替えます。スラント体とスモールキャッ
- \sl プの数式アルファベットはありませんので、数式モードでは何もしませんが、警告
- \sc メッセージを出力します。\upshape コマンドで通常のシェイプにすることができます。
 - 1637 \DeclareOldFontCommand{\it}{\normalfont\itshape}{\mathit}
 - $1638 \end{\colored} \label{locality} $$1638 \end{\colored} \end{\colored} $$1638 \end{$
 - 1639 \DeclareOldFontCommand{\sc}{\normalfont\scshape}{\@nomath\sc}
- \cal これらのコマンドは数式モードでだけ使うことができます。数式モード以外では何 \mit もしません。現在の NFSS は、これらのコマンドが警告を生成するように定義して いますので、'手ずから' 定義する必要があります。
 - $1640 \ensuremath{\texttt{Nontswitch}} \ensuremath{\texttt{$
 - $1641 \verb|\DeclareRobustCommand*{\mit}{\mit}| \label{logical} $$ 1641 \end{substitch} $$ \align{substitution} $$ 1641 \end{substitution} $$ 1641 \end{substit$

11 相互参照

11.1 目次

\section コマンドは、.toc ファイルに、次のような行を出力します。

\contentsline{section} $\{\langle title \rangle\}\{\langle page \rangle\}$

 $\langle title \rangle$ には項目が、 $\langle page \rangle$ にはページ番号が入ります。\section に見出し番号が付く場合は、 $\langle title \rangle$ は、\numberline{ $\langle num \rangle$ }{ $\langle heading \rangle$ }となります。 $\langle num \rangle$ は\thesection コマンドで生成された見出し番号です。 $\langle heading \rangle$ は見出し文字列です。この他の見出しコマンドも同様です。

figure 環境での \caption コマンドは、.lof ファイルに、次のような行を出力します。

 $\langle num \rangle$ は、\thefigure コマンドで生成された図番号です。 $\langle caption \rangle$ は、キャプション文字列です。table 環境も同様です。

\contentsline{\(\name\)}コマンドは、\\\10(\name\) に展開されます。したがって、 目次の体裁を記述するには、\\\10chapter, \\\10section などを定義します。図目次 のためには\\\10figure です。これらの多くのコマンドは\\\0dottedtocline コマン ドで定義されています。このコマンドは次のような書式となっています。

 $\label{eq:localine} $$\dottedtocline{\langle level\rangle} {\langle indent\rangle} {\langle numwidth\rangle} {\langle title\rangle} {\langle page\rangle}$}$

 $\langle level \rangle$ " $\langle level \rangle <= tocdepth$ " のときにだけ、生成されます。\chapter はレベル 0、\section はレベル 1、... です。

〈indent〉一番外側からの左マージンです。

⟨numwidth⟩ 見出し番号 (*\numberline* コマンドの *⟨num⟩*) が入るボックスの幅です。

\c@tocdepth tocdepthは、目次ページに出力をする見出しレベルです。

1642 %<article>\setcounter{tocdepth}{3} 1643 %<!article>\setcounter{tocdepth}{2}

また、目次を生成するために次のパラメータも使います。

\Opnumwidth ページ番号の入るボックスの幅です。

 $1644 \newcommand{\Qpnumwidth}{1.55em}$

\@tocmarg 複数行にわたる場合の右マージンです。

1645 \newcommand{\@tocrmarg}{2.55em}

\@dotsep ドットの間隔 (mu 単位) です。2 や 1.7 のように指定をします。 1646 \newcommand{\@dotsep}{4.5}

\toclineskip この長さ変数は、目次項目の間に入るスペースの長さです。デフォルトはゼロとなっています。縦組のとき、スペースを少し広げます。

1647 \newdimen\toclineskip

1648 %<yoko>\setlength\toclineskip{\z@}

1649 %<tate>\setlength\toclineskip{2\p@}

\numberline \numberline マクロの定義を示します。オリジナルの定義では、ボックスの幅を \@lnumwidth \@tempdima にしていますが、この変数はいろいろな箇所で使われますので、期待 した値が入らない場合があります。

たとえば、1ltjfont.styでの\selectfontは、和欧文のベースラインを調整するために\@tempdima変数を用いています。そのため、\lo...マクロの中でフォン

トを切替えると、\numberlineマクロのボックスの幅が、ベースラインを調整するときに計算した値になってしまいます。

フォント選択コマンドの後、あるいは \numberline マクロの中でフォントを切替えてもよいのですが、一時変数を意識したくないので、見出し番号の入るボックスを \@lnumwidth 変数を用いて組み立てるように \numberline マクロを再定義します。

1650 \newdimen\@lnumwidth

 $1651 \ensuremath{$\ $$ 1651 \ensuremath{$\ $$ ine $1_{\ \ \ }}$

\@dottedtocline 目次の各行間に \toclineskip を入れるように変更します。このマクロは ltsect.dtx で定義されています。

```
1652 \def\@dottedtocline#1#2#3#4#5{%
     \ifnum #1>\c@tocdepth \else
1654
        \vskip\toclineskip \@plus.2\p@
1655
        {\leftskip #2\relax \rightskip \@tocrmarg \parfillskip -\rightskip
         \parindent #2\relax\@afterindenttrue
1656
         \interlinepenalty\@M
1657
1658
         \leavevmode
1659
         \@lnumwidth #3\relax
1660
         \advance\leftskip \@lnumwidth \null\nobreak\hskip -\leftskip
         {#4}\nobreak
1661
1662
         \leaders\hbox{$\m@th \mkern \@dotsep mu.\mkern \@dotsep mu$}%
1663
         \hfill\nobreak
1664
         \hb@xt@\@pnumwidth{\hss\normalfont \normalcolor #5}%
1665
         \par}%
1666
     \fi}
```

\addcontentsline ページ番号を \rensuji で囲むように変更します。横組のときにも '\rensuji' コマ ンドが出力されますが、このコマンドによる影響はありません。

このマクロは ltsect.dtx で定義されています。

```
1667 \def\addcontentsline#1#2#3{%
1668 \protected@write\@auxout
1669 {\let\label\@gobble \let\index\@gobble \let\glossary\@gobble
1670 %<tate>\@temptokena{\rensuji{\thepage}}}%
1671 %<yoko>\@temptokena{\thepage}}%
1672 {\string\@writefile{#1}%
1673 {\protect\contentsline{#2}{#3}{\the\@temptokena}}}%
1674 }
```

11.1.1 本文目次

\tableofcontents 目次を生成します。

1675 \newcommand{\tableofcontents}{%

1676 %<*report|book>

1677 \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn

```
1678 \else\@restonecolfalse\fi
          1679 %</report|book>
          1680 %<article> \section*{\contentsname
          1681 %<!article> \chapter*{\contentsname
            \tableofcontents では、\@mkboth は heading の中に入れてあります。ほかの命
            令 (\listoffigures など) については、\@mkboth は heading の外に出してありま
            す。これは LATEX の classes.dtx に合わせています。
                  \@mkboth{\contentsname}{\contentsname}%
                }\@starttoc{toc}%
          1684 % report|book> \if@restonecol\twocolumn\fi
          1685 }
   \10part part レベルの目次です。
          1686 \newcommand*{\l@part}[2]{%
               \ifnum \c@tocdepth >-2\relax
          1688 %<article>
                            \addpenalty{\@secpenalty}%
                             \addpenalty{-\@highpenalty}%
          1689 %<!article>
          1690
                  \addvspace{2.25em \@plus\p@}%
          1691
                  \begingroup
                  \parindent\z@\rightskip\@pnumwidth
          1692
          1693
                  \parfillskip-\@pnumwidth
          1694
                  {\leavevmode\large\bfseries
                   \setlength\@lnumwidth{4\zw}%
          1695
                   #1\hfil\nobreak
          1696
                   \b@xt@\@pnumwidth{\hss#2}}\par
          1697
                  \nobreak
          1698
          1699 %<article>
                            \if@compatibility
                  \global\@nobreaktrue
          1700
                  \everypar{\global\@nobreakfalse\everypar{}}%
          1701
          1702 %<article>
                   \endgroup
          1703
          1704
                fi
\1@chapter chapter レベルの目次です。
          1705 %<*report|book>
          1706 \newcommand*{\l@chapter}[2]{%
          1707
                \ifnum \c@tocdepth >\m@ne
          1708
                  \addpenalty{-\@highpenalty}%
                  \addvspace{1.0em \@plus\p@}%
          1709
          1710
                  \begingroup
                    \parindent\z@ \rightskip\@pnumwidth \parfillskip-\rightskip
          1711
          1712
                    \leavevmode\bfseries
          1713
                    \setlength\@lnumwidth{4\zw}%
          1714
                    \advance\leftskip\@lnumwidth \hskip-\leftskip
                    1\ in obreak \hfil \nobreak \hb@xt@\@pnumwidth{\hss#2} \par
          1715
                    \penalty\@highpenalty
          1716
                  \endgroup
          1717
```

```
1718 \fi}
                                                                       1719 %</report|book>
                         \1@section section レベルの目次です。
                                                                       1720 %<*article>
                                                                       1721 \newcommand*{\l@section}[2]{%
                                                                       1722
                                                                                                 \ifnum \c@tocdepth >\z@
                                                                       1723
                                                                                                           \addpenalty{\@secpenalty}%
                                                                       1724
                                                                                                           \addvspace{1.0em \@plus\p@}%
                                                                       1725
                                                                                                           \begingroup
                                                                       1726
                                                                                                                   \parindent\z@ \rightskip\@pnumwidth \parfillskip-\rightskip
                                                                       1727
                                                                                                                   \leavevmode\bfseries
                                                                                                                   \setlength\@lnumwidth{1.5em}%
                                                                       1728
                                                                       1729
                                                                                                                   \advance\leftskip\@lnumwidth \hskip-\leftskip
                                                                       1730
                                                                                                                   #1\nobreak\hfil\nobreak\hb@xt@\@pnumwidth{\hss#2}\par
                                                                       1731
                                                                                                           \endgroup
                                                                       1732
                                                                                                 \fi}
                                                                       1733 %</article>
                                                                       1734 %<*report|book>
                                                                       1735 %<tate>\newcommand*{\l@section}{\@dottedtocline{1}{1\zw}{4\zw}}
                                                                       1736 \% \cyclon\newcommand*{\lesection}{\\delta\delta\cline{1}{1.5em}{2.3em}}
                                                                       1737 %</report|book>
            \l@subsection 下位レベルの目次項目の体裁です。
\l@subsubsection 1738 %<*tate>
                \label{eq:command*} $$1739 \ \%<*article>$$1740 \ \newcommand*{\losubsection}$$
                                                                                                                                                                                                                              {\dot{dottedtocline}{2}{1\zw}{4\zw}}
    \verb|\line| 1741 \end{|} I one with the property of the content of 
                                                                       1742 \newcommand*{\l@paragraph}
                                                                                                                                                                                                                              {\dot{dottedtocline}{4}{3\zw}{8\zw}}
                                                                       1743 \enskip {\tt \command*{\tt 
                                                                       1744 %</article>
                                                                       1745 %<*report|book>
                                                                       1746 \newcommand*{\l@subsection}
                                                                                                                                                                                                                             {\dot{dottedtocline}{2}{2\zw}{6\zw}}
                                                                       1747 \end{\{\lower 1747 } \end{\{\lower 1747 }
                                                                       1748 \newcommand*{\l@paragraph}
                                                                                                                                                                                                                             {\dottedtocline{4}{4}zw}{9}zw}
                                                                       1749 \mbox{\lossym} {\dottedtocline{5}{5}zw}{10}zw}
                                                                       1750 %</report|book>
                                                                       1751 %</tate>
                                                                       1752 %<*yoko>
                                                                       1753 %<*article>
                                                                       1754 \newcommand*{\l@subsection}
                                                                                                                                                                                                                              {\cline{2}{1.5em}{2.3em}}
                                                                       1755 \newcommand*{\l@subsubsection}{\@dottedtocline{3}{3.8em}{3.2em}}
                                                                       1756 \newcommand*{\l@paragraph}
                                                                                                                                                                                                                              {\cline{4}{7.0em}{4.1em}}
                                                                       1757 \newcommand*{\l@subparagraph} {\@dottedtocline{5}{10em}{5em}}
                                                                       1758 %</article>
                                                                       1759 %<*report|book>
                                                                       1760 \newcommand*{\l@subsection}
                                                                                                                                                                                                                              {\cline{2}{3.8em}{3.2em}}
                                                                       1761 \mbox{\losses} {\mbox{\losses} (3,10m){4.1em}}
                                                                       1762 \newcommand*{\l@paragraph}
                                                                                                                                                                                                                              {\@dottedtocline{4}{10em}{5em}}
```

```
1764 %</report|book>
             1765 %</yoko>
              11.1.2 図目次と表目次
\listoffigures 図の一覧を作成します。
             1766 \newcommand{\listoffigures}{%
             1767 %<*report|book>
             1768 \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn
             1769 \else\@restonecolfalse\fi
             1770 \chapter*{\listfigurename}%
             1771 %</report|book>
             1772 %<article>
                             \section*{\listfigurename}%
             1773 \@mkboth{\listfigurename}{\listfigurename}%
             1774 \@starttoc{lof}%
             1775 %<report|book> \if@restonecol\twocolumn\fi
    \lOffigure 図目次の体裁です。
             1777 % <tate > \newcommand * {\l@figure} {\@dottedtocline {1} {1 \zw} {4 \zw}}
             \listoftables 表の一覧を作成します。
             1779 \newcommand{\listoftables}{%
             1780 %<*report|book>
             1781 \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn
             1782 \else\@restonecolfalse\fi
             1783 \chapter*{\listtablename}%
             1784 %</report|book>
                             \section*{\listtablename}%
             1785 %<article>
             1786 \@mkboth{\listtablename}{\listtablename}%
             1787 \@starttoc{lot}%
             1788 %<report|book> \if@restonecol\twocolumn\fi
             1789 }
     \lotable 表目次の体裁は、図目次と同じにします。
             1790 \let\l@table\l@figure
```

 $1763 \verb|\newcommand*{\l@subparagraph}| {\localine{5}{12em}{6em}}|$

11.2 参考文献

\bibindent オープンスタイルの参考文献で使うインデント幅です。

1791 \newdimen\bibindent

1792 \setlength\bibindent{1.5em}

\newblock \newblockのデフォルト定義は、小さなスペースを生成します。
1793 \newcommand{\newblock}{\hskip .11em\@plus.33em\@minus.07em}

```
thebibliography 参考文献や関連図書のリストを作成します。
               1794 \newenvironment{thebibliography}[1]
               1795 %<article>{\section*{\refname}\@mkboth{\refname}\%
               1796 %"<report|book>{\chapter*{\bibname}\@mkboth{\bibname}{\bibname}\"
               1797
                      \list{\@biblabel{\@arabic\c@enumiv}}%
                           {\tt \{\settowidth\labelwidth{\label{\#1}}\%}
               1798
               1799
                            \leftmargin\labelwidth
                            \advance\leftmargin\labelsep
               1800
                            \@openbib@code
               1801
               1802
                            \usecounter{enumiv}%
               1803
                            \let\p@enumiv\@empty
                            \renewcommand\theenumiv{\@arabic\c@enumiv}}%
               1804
               1805
                      \sloppy
                      \clubpenalty4000
               1806
                      \@clubpenalty\clubpenalty
               1807
                      \widowpenalty4000%
               1808
                      \sfcode`\.\@m}
               1809
                     {\def\@noitemerr
               1810
                       {\@latex@warning{Empty `thebibliography' environment}}%
               1811
                 ンによって変更されます。
```

\@openbib@code \@openbib@code のデフォルト定義は何もしません。この定義は、openbib オプショ

1813 \let\@openbib@code\@empty

\@biblabel The label for a \bibitem[...] command is produced by this macro. The default from latex.dtx is used.

1814 % \renewcommand*{\@biblabel}[1]{[#1]\hfill}

\@cite The output of the \cite command is produced by this macro. The default from ltbibl.dtx is used.

1815 % \renewcommand*{\@cite}[1]{[#1]}

11.3 索引

2段組の索引を作成します。索引の先頭のページのスタイルは jpl@in とします。し たがって、headings と bothstyle に適した位置に出力されます。

```
1816 \newenvironment{theindex}
1817 {\if@twocolumn\@restonecolfalse\else\@restonecoltrue\fi
                 \twocolumn[\section*{\indexname}]%
1818 %<article>
1819 %<report | book>
                     \twocolumn[\@makeschapterhead{\indexname}]%
1820
       \@mkboth{\indexname}{\indexname}%
1821
       \thispagestyle{jpl@in}\parindent\z@
```

パラメータ \columnseprule と \columnsep の変更は、\twocolumn が実行された後でなければなりません。そうしないと、索引の前のページにも影響してしまうためです。

- 1822 \parskip\z@ \@plus .3\p@\relax
- 1823 \columnseprule\z@ \columnsep 35\p@
- 1824 \let\item\@idxitem}
- 1825 {\if@restonecol\onecolumn\else\clearpage\fi}

\@idxitem 索引項目の字下げ幅です。\@idxitem は \item の項目の字下げ幅です。

 $\verb|\subitem| 1826 \verb|\newcommand{@idxitem}{\par\hangindent 40p@}|$

\indexspace 索引の"文字"見出しの前に入るスペースです。

11.4 脚注

\footnoterule 本文と脚注の間に引かれる罫線です。

- 1830 \renewcommand{\footnoterule}{%
- 1831 \kern-3\p@
- 1832 \hrule\@width.4\columnwidth
- 1833 \kern2.6\p0}

\c@footnote report と book クラスでは、chapter レベルでリセットされます。

1834 %<!article>\@addtoreset{footnote}{chapter}

\@makefntext このマクロにしたがって脚注が組まれます。

\@makefnmark は脚注記号を組み立てるマクロです。

- 1835 %<*tate>
- 1836 \newcommand\@makefntext[1]{\parindent 1\zw
- 1837 \noindent\hb@xt@ 2\zw{\hss\@makefnmark}#1}
- 1838 %
- 1839 %<*yoko>
- 1840 \newcommand\@makefntext[1] {\parindent 1em
- 1841 \noindent\hb@xt@ 1.8em{\hss\@makefnmark}#1}
- 1842 %</yoko>

12 今日の日付

組版時における現在の日付を出力します。

\if 西暦 \today コマンドの '年' を、西暦か和暦のどちらで出力するかを指定するコマンド \ 西暦 です。

\ 和曆

```
1843 \newif\if 西曆 \ 西曆 false
1844 \def\ 西曆{\ 西曆 true}
1845 \def\ 和曆{\ 西曆 false}
```

\heisei \today コマンドを \rightmark で指定したとき、\rightmark を出力する部分で 和暦のための計算ができないので、クラスファイルを読み込む時点で計算しておきます。

1846 \newcount\heisei \heisei\year \advance\heisei-1988\relax

\today 縦組の場合は、漢数字で出力します。

```
1847 \det \text{def} 
1848
      \ifnum\ltjgetparameter{direction}=3
        \if 西暦
1849
          \kansuji\year 年
1850
          \kansuji\month 月
1851
1852
          \kansuji\day ∃
1853
           平成 \ifnum\heisei=1 元年 \else\kansuji\heisei 年 \fi
1854
          \kansuji\month 月
1855
          \kansuji\day ∃
1856
        \fi
1857
1858
      \else
        \if 西暦
1859
1860
          \number\year~年
          \number\month~月
1861
          \number\day~ □
1862
1863
           平成 \ifnum\heisei=1 元年 \else\number\heisei~年 \fi
1864
1865
          \number\month~月
          \number\day~ []
1866
1867
      fi}
1868
```

13 初期設定

```
\prepartname
\postpartname 1869 \newcommand{\prepartname}{第}
\prechaptername 1870 \newcommand{\postpartname}{部}
\prechaptername 1871 %<report|book>\newcommand{\prechaptername}{第}
\postchaptername 1872 %<report|book>\newcommand{\postchaptername}{章}
\contentsname
\listfigurename 1873 \newcommand{\contentsname}{目 次}
\listtablename 1874 \newcommand{\listfigurename}{図 目 次}
\1875 \newcommand{\listfigurename}{表 目 次}
```

```
\refname
   \bibname 1876 %<article>\newcommand{\refname}{参考文献}
  \indexname 1877 % < report | book > \newcommand {\bibname} {関連図書}
          1878 \newcommand{\indexname}{索 引}
 \figurename
  1880 \newcommand{\tablename}{表}
\appendixname
\abstractname 1881 \newcommand{\appendixname}{付 録}
          1882 %<article|report>\newcommand{\abstractname}{概要}
             stfloats パッケージがシステムにインストールされている場合は、このパッケー
           ジを使って pIATeX の標準時と同じようにボトムフロートの下に脚注が組まれるよ
           うにします。
          1883 %<book>\pagestyle{headings}
          1884 %<!book>\pagestyle{plain}
          1885 \pagenumbering{arabic}
          1886 \raggedbottom
          1887 \fnfixbottomtrue \% 2017-02-19
          1888 \IfFileExists{stfloats.sty}{\RequirePackage{stfloats}\fnbelowfloat}{}
          1889 \if@twocolumn
              \twocolumn
          1891
              \sloppy
          1892 \else
          1893
             \onecolumn
          1894 \fi
           \@mparswitch は傍注を左右(縦組では上下)どちらのマージンに出力するかの指
           定です。偽の場合、傍注は一方の側にしか出力されません。このスイッチを真とす
           ると、とくに縦組の場合、奇数ページでは本文の上に、偶数ページでは本文の下に
           傍注が出力されますので、おかしなことになります。
             また、縦組のときには、傍注を本文の下に出すようにしています。\reversemarginpar
           とすると本文の上側に出力されます。ただし、二段組の場合は、つねに隣接するテ
           キスト側のマージンに出力されます。
          1895 %<*tate>
```

1896 \normalmarginpar

1904 \fi 1905 %</yoko> 1906 %</article|report|book>

14 各種パッケージへの対応

もともと縦組での利用を想定されていないいくつかのパッケージについて、補正するためのコードを記述しておきます。この節のコードは filehook パッケージ (Lua T_FX -ja 読み込み時に自動でロードされます) の機能を用いています。

14.1 ftnright パッケージ

脚注番号の書式がftnrightパッケージによって勝手に書き換えられるので、パッケージ読み込み前に予め退避しておき、読み込み後に復帰させます。

1907 %<*article|report|book>

1908 \AtBeginOfPackageFile*{ftnright}{\let\ltjt@orig@@makefntext=\@makefntext}

1909 \AtEndOfPackageFile*{ftnright}{\let\@makefntext=\ltjt@orig@@makefntext}

1910 %</article|report|book>